

健康に関するアンケート調査
報告書
－ 概要版 －

令和7年2月
大田区

目次

1 調査実施の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の方法等	1
3 回収結果	1
4 概要版の見方	1
2 健康に関するアンケート調査結果	2
1. あなた自身について	2
(1) 地域	2
(2) 性別	2
(3) 年齢	3
(4) 就労形態	3
(5) 身長・体重 (BMI)	4
2. 健診・検診について	5
(1) 健診の受診状況	5
(2) 健診を受けていない理由	6
(3) 大田区が行っているがん検診の認知度	7
(4) がん検診の受診状況	8
(5) がん検診を受けていない理由	9
(6) がん発病後の地域での暮らし	9
3. 食生活について	10
(1) 朝食の摂取状況	10
(2) 日頃の食生活で気をつけていること	12
(3) 主食、主菜、副菜をそろえた食事の回数	12
4. 健康づくりについて	13
(1) 健康状態	13
(2) 運動の状況	14
(3) 1日の歩数	15
(4) 各種活動への参加状況	16
5. 妊娠・出産について	16
(1) 妊娠・出産に関する相談場所の認知度	16
6. こころの健康について	17
(1) ストレスの状況	17
(2) ストレスの解消方法	19
7. 自殺対策について	20
(1) こころの健康や自殺に関する相談先	20
(2) 「死にたい」と打ち明けられた場合の対処法	20
8. アルコール・たばこについて	21

(1) 1日あたりの飲酒量	21
(2) 喫煙状況	23
(3) 受動喫煙の経験場所	25
9. 歯の健康について	26
(1) 固いものでもよく噛んで食べることができるか	26
(2) オーラルフレイルの認知度	28
(3) 口腔ケアと誤えん性肺炎の関連性の認知度	29
10. 感染症対策について	30
(1) 結核の認知度	30
(2) HIV／エイズの認知度	31
11. 地域医療について	33
(1) かかりつけ医の有無	33
(2) かかりつけ歯科医での定期検診状況	34
(3) 緊急医療救護所の認知度	35
(4) 在宅医療の制度や仕組みの認知状況	35
12. 生活衛生対策について	36
(1) 食品衛生の注意点	36
3 健康に関するアンケート調査結果（小学6年生）	37
1. あなた自身について	37
(1) 地域	37
(2) 性別	37
(3) 身長・体重・肥満度	38
2. 日頃の生活について	39
(2) ストレスの状況	39
(3) 運動の状況	40
(4) 1日の運動時間	40
(5) 健康状態	41
(6) 健康で気をつけていること	42
3. こころの健康について	43
(1) 思春期についての認知状況	43
(2) 相談できる人の有無	43
4. 食生活について	44
(1) 朝食の摂取状況	44
(2) 食事を残したときに、「もったいない」と思う頻度	44
5. 歯の健康について	45
(1) むし歯以外での歯医者への通院	45
(2) ゆっくりよくかんで食べる状況	45
(3) ていねいな歯みがきの習慣	46

1 調査実施の概要

1 調査の目的

区民の健康に関する意識や習慣などを把握し、平成31年3月に策定した「おおた健康プラン(第三次)」の評価及び次期計画策定のための基礎資料とします。

2 調査の方法等

	健康に関するアンケート	健康に関するアンケート(小学6年生)
調査対象	大田区在住の18歳以上の男女 4,000人	大田区在住の小学6年生 1,300人
抽出方法	住民基本台帳からの層化無作為抽出	住民基本台帳からの層化無作為抽出
調査方法	郵送配布 - 郵送・インターネット併用回収	郵送配布 - 郵送回収
調査期間	令和6年9月11日～9月30日	令和6年9月20日～10月18日

3 回収結果

調査区分	性別	標本数	有効回収数(人)	有効回収率(%)
区民	男性	1,980	543	27.4
	女性	2,020	690	34.2
	回答しない		9	
	合計	4,000	1,243	31.1
小学6年生	男性	663	301	45.4
	女性	637	306	48.0
	回答しない		5	
	合計	1,300	616	47.4

4 概要版の見方

- (1) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合があります。
- (2) 基数となるべき実数は、(n : number of casesの略)として表示しています。
- (3) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出しています。従って、複数回答の設問は全ての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によって語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 図表中では、“-”を用いていることがある。それは回答者がいないことを表しています。
- (6) 分析の軸(=表側)とした調査回答者の属性や設問は、無回答を除いています。そのため、各調査回答者の属性の基数の合計が全体と一致しない場合があります。
- (7) 分析の軸(=表側)とした調査回答者の属性や設問でnが少ないもの(25人未満)は標本誤差が大きくなるため参考として図示していますが、分析の対象からは除いています。

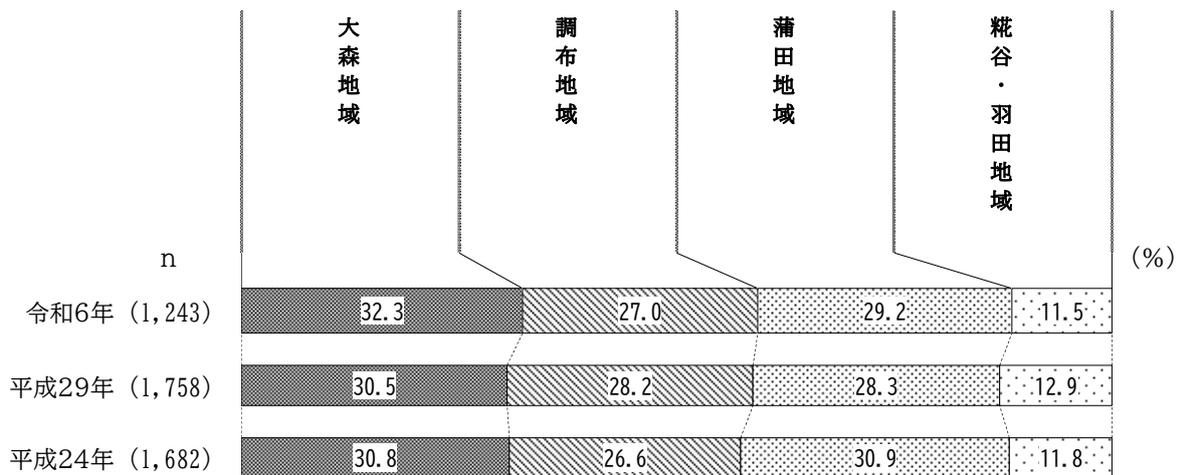
2 健康に関するアンケート調査結果

1. あなた自身について

(1) 地域

回答者の地域は、「大森地域」が32.3%、「調布地域」が27.0%、「蒲田地域」が29.2%、「糀谷・羽田地域」が11.5%となっている。

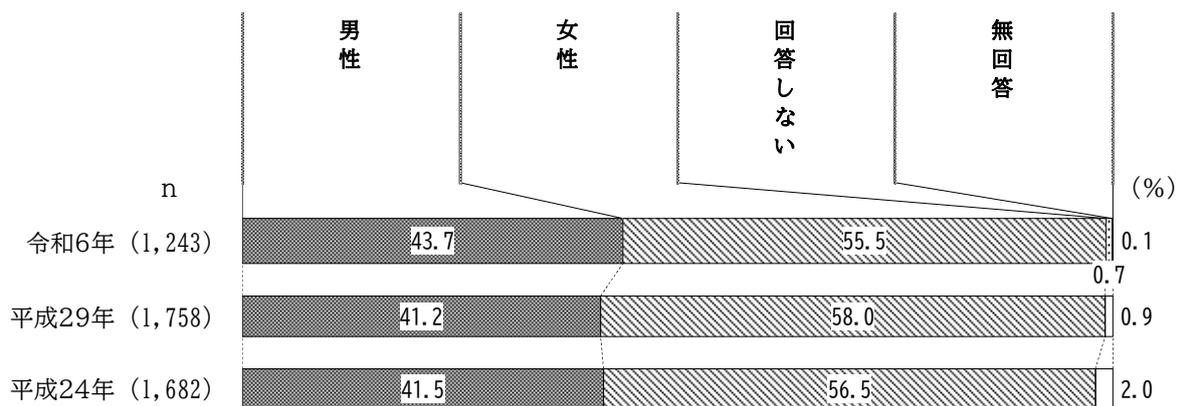
時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



(2) 性別

回答者の性別は、「男性」が43.7%、「女性」が55.5%となっている。

時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。

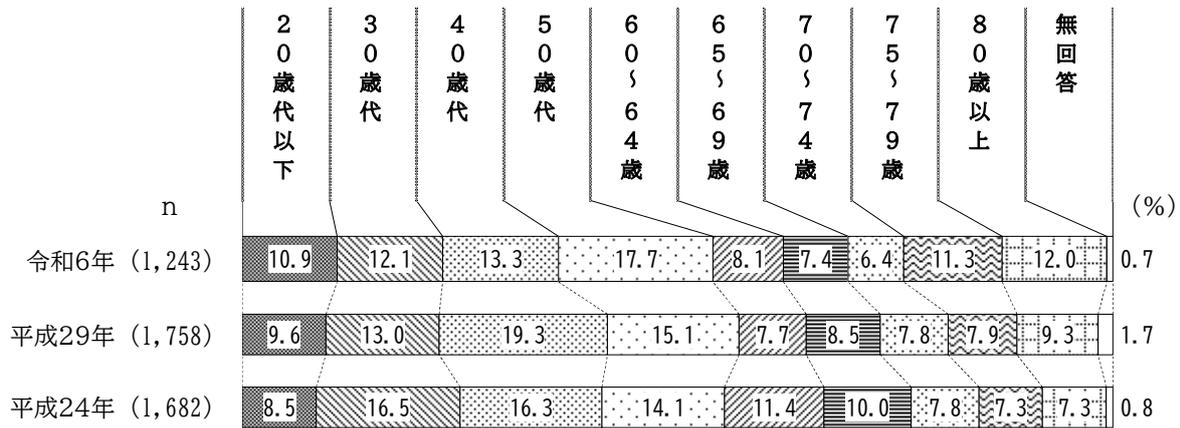


※今回調査より、選択肢「回答しない」が追加された。

(3) 年齢

回答者の年齢は、「50歳代」が17.7%で最も高く、次いで「40歳代」が13.3%、「30歳代」が12.1%となっている。65歳以上は合計37.1%前期高齢者（65歳以上75歳未満）：13.8%、後期高齢者（75歳以上）：23.3%）となっている。

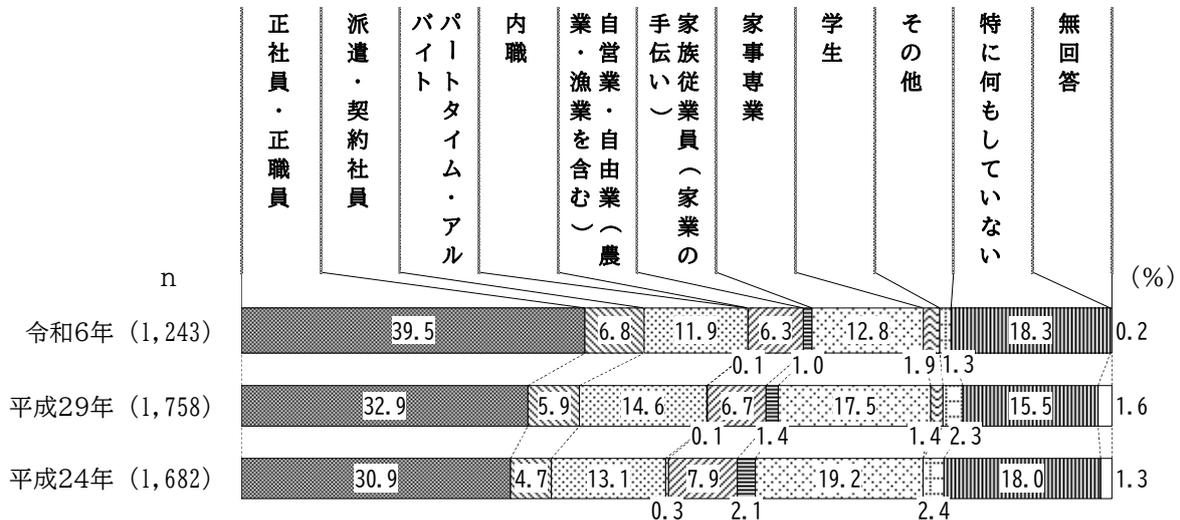
時系列で比較すると、「40歳代」（令和6年：13.3% 平成29年：19.3% 平成24年：16.3%）が前回調査より6ポイント減少している。



(4) 就労形態

回答者の就労形態は、「正社員・正職員」が39.5%で最も高く、次いで「家事専業」が12.8%、「パートタイム・アルバイト」が11.9%となっている。一方、「特に何もしていない」は18.3%となっている。

時系列で比較すると、「正社員・正職員」（令和6年：39.5% 平成29年：32.9% 平成24年：30.9%）が前回調査より6.6ポイント、前々回調査より8.6ポイント増加している。一方、「家事専業」（令和6年：12.8% 平成29年：17.5% 平成24年：19.2%）が前々回調査より6.4ポイント減少している。

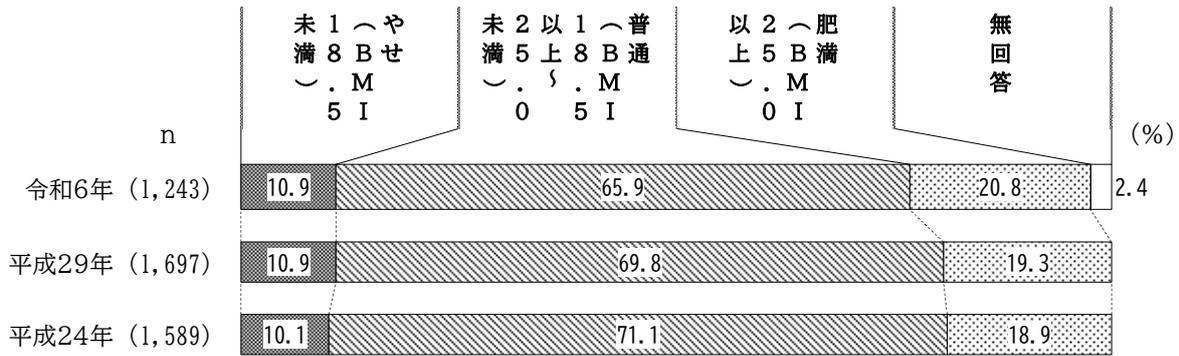


※前回調査より、選択肢「学生」が追加された。

(5) 身長・体重 (BMI)

身長と体重の結果をもとにBMIを算出した結果、構成比は「やせ (BMI 18.5未満)」が10.9%、「普通 (BMI 18.5以上～25.0未満)」が65.9%、「肥満 (BMI 25.0以上)」が20.8%となっている。

時系列で比較すると、「普通 (BMI 18.5以上～25.0未満)」(令和6年：65.9% 平成29年：69.8% 平成24年：71.1%)が前々回調査より5.2ポイント減少している。



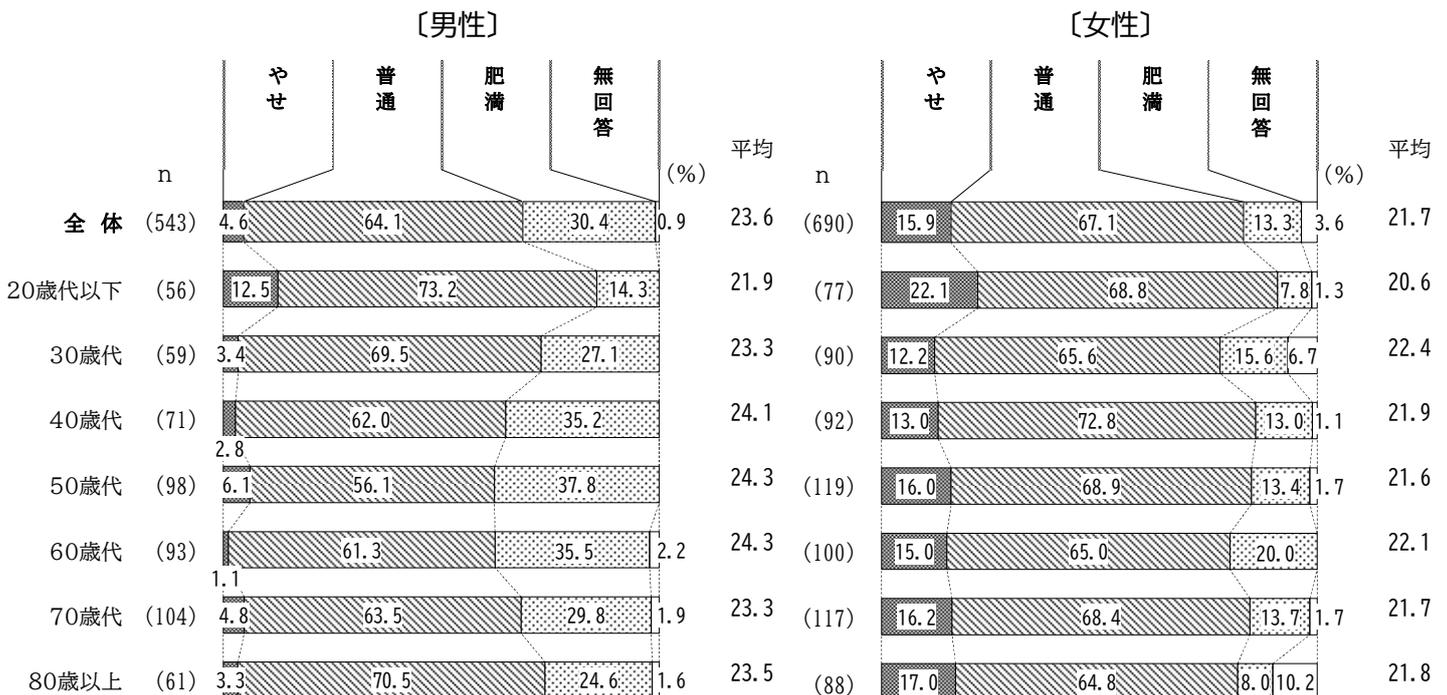
【性別、性／年代別】

性別でみると、平均は男性で23.6、女性で21.7となっている。

構成比でみると、「やせ」(男性：4.6% 女性：15.9%)は女性の方が男性よりも11.3ポイント高くなっている。一方、「肥満」(男性：30.4% 女性：13.3%)は男性の方が女性よりも17.1ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、男性では、「肥満」は40歳代～60歳代で高くなっており、40歳代で35.2%、50歳代で37.8%、60歳代で35.5%となっている。

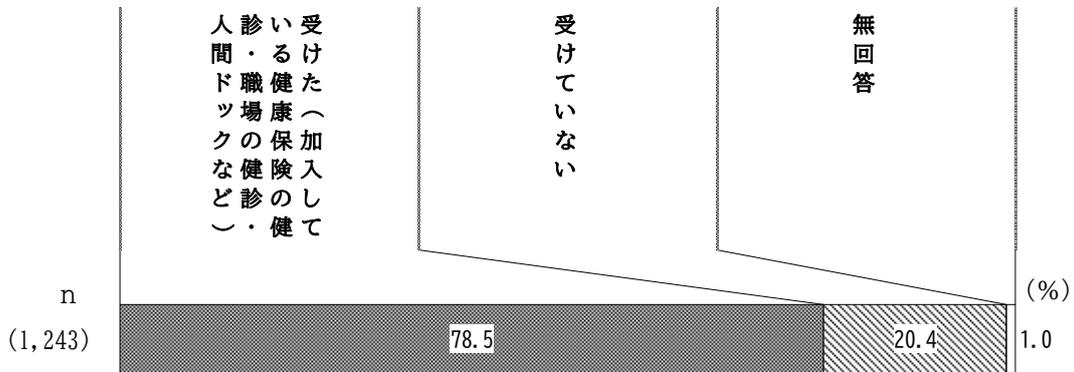
女性では、「やせ」が20歳代以下で22.1%と他の年代に比べて高くなっている。一方、「肥満」が60歳代で20.0%となっている。



2. 健診・検診について

(1) 健診の受診状況

健診の受診状況は、「受けた」が78.5%、「受けていない」が20.4%となっている。

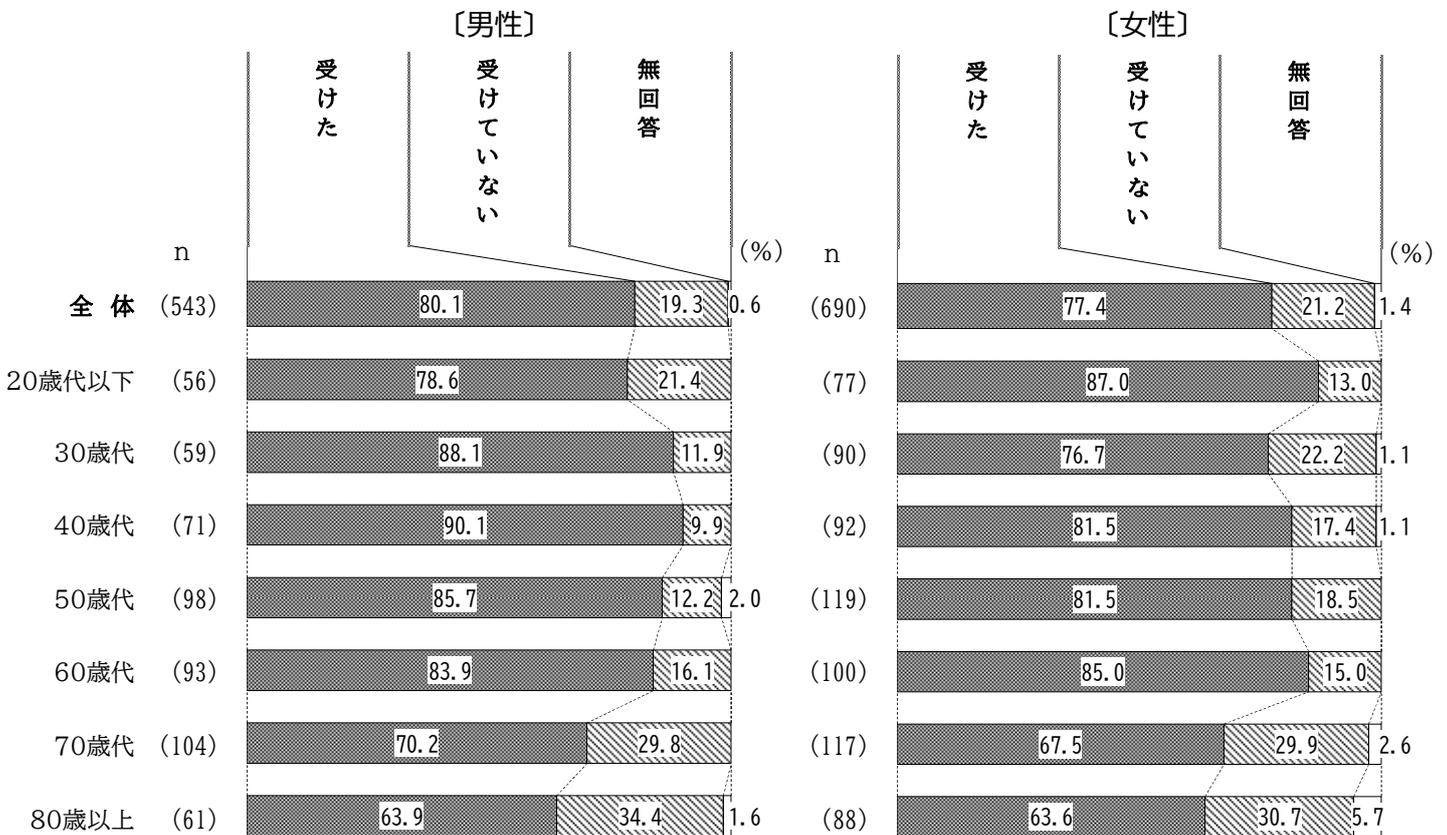


【性別、性／年代別】

性別でみると、特に大きな違いはみられない。

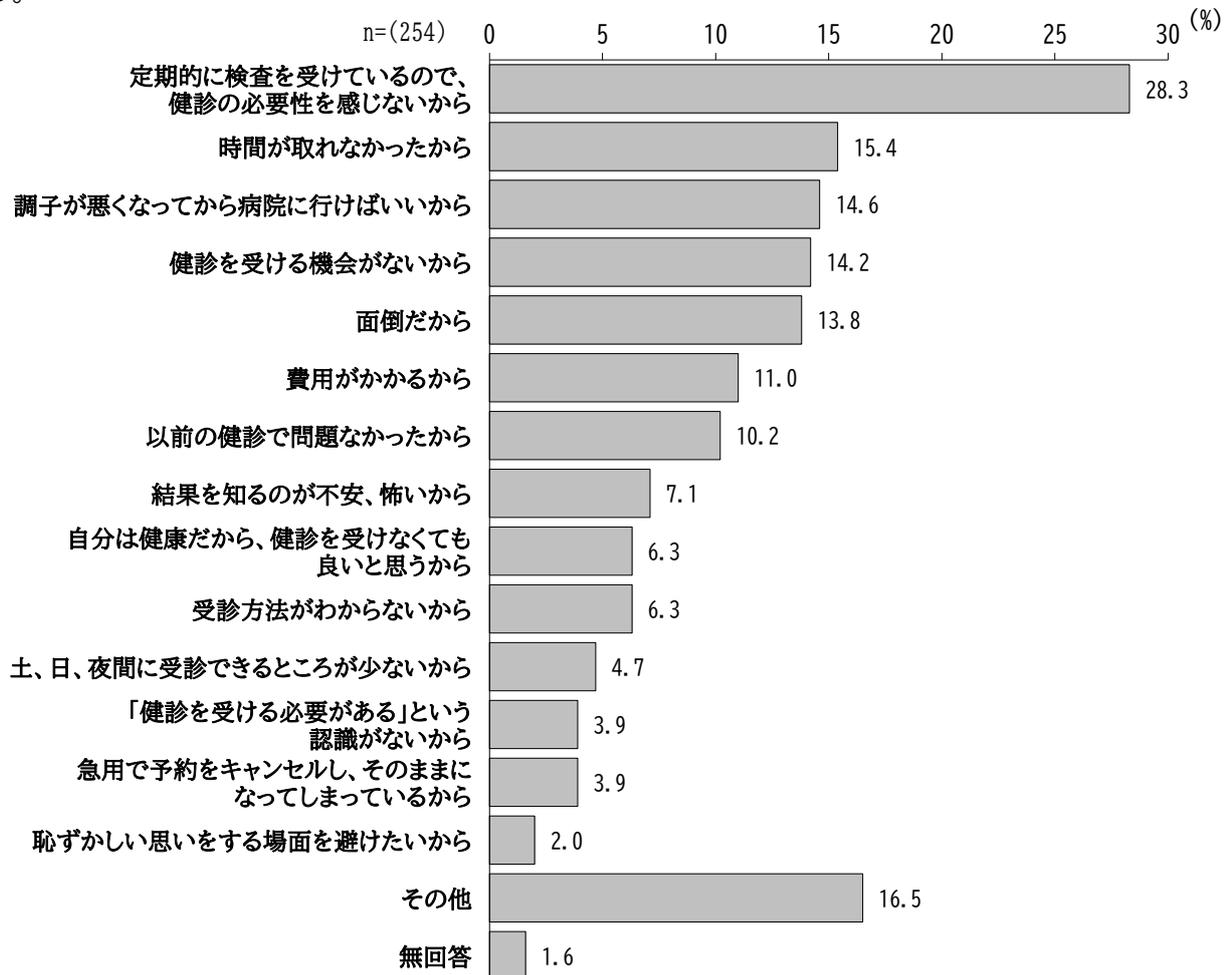
性／年代別でみると、男性では、「受けた」が80歳以上を除いて7割～9割を超えているが、80歳以上は63.9%にとどまっている。

女性では、「受けた」が20歳代以下で87.0%と最も高く、次いで60歳代で85.0%、40歳代と50歳代で81.5%となっている。



(2) 健診を受けていない理由

検診の受診状況で「受けていない」と回答した方にその理由をたずねた。その結果、「定期的に検査を受けているので、健診の必要性を感じないから」が28.3%で最も高く、次いで「時間が取れなかったから」が15.4%、「調子が悪くなってから病院に行けばいいから」が14.6%となっている。

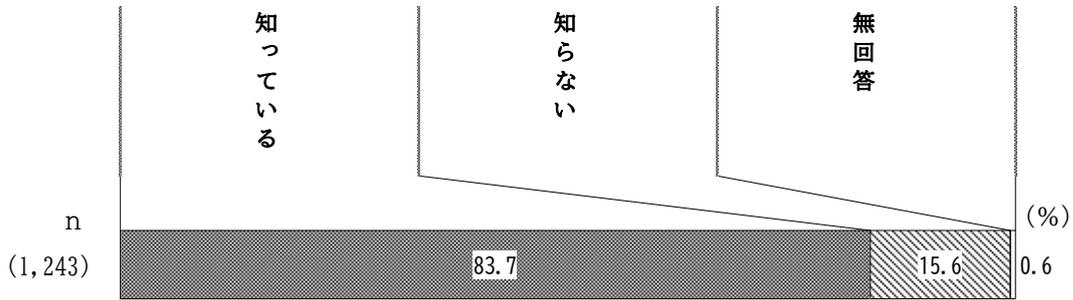


【その他の回答内容（抜粋）】

- ・希望する所の申し込みをしても予約で一杯との事。(男性・50歳代)
- ・育休で会社で受けることができなかった。(女性・30歳代)
- ・40歳を迎えてから受けようと思っているから。(女性・30歳代)
- ・猛暑だったので涼しくなったら受診するつもりがこれからになってしまった。(女性・70歳代)

(3) 大田区が行っているがん検診の認知度

大田区が行っているがん検診の認知度は、「知っている」が83.7%、「知らない」が15.6%となっている。

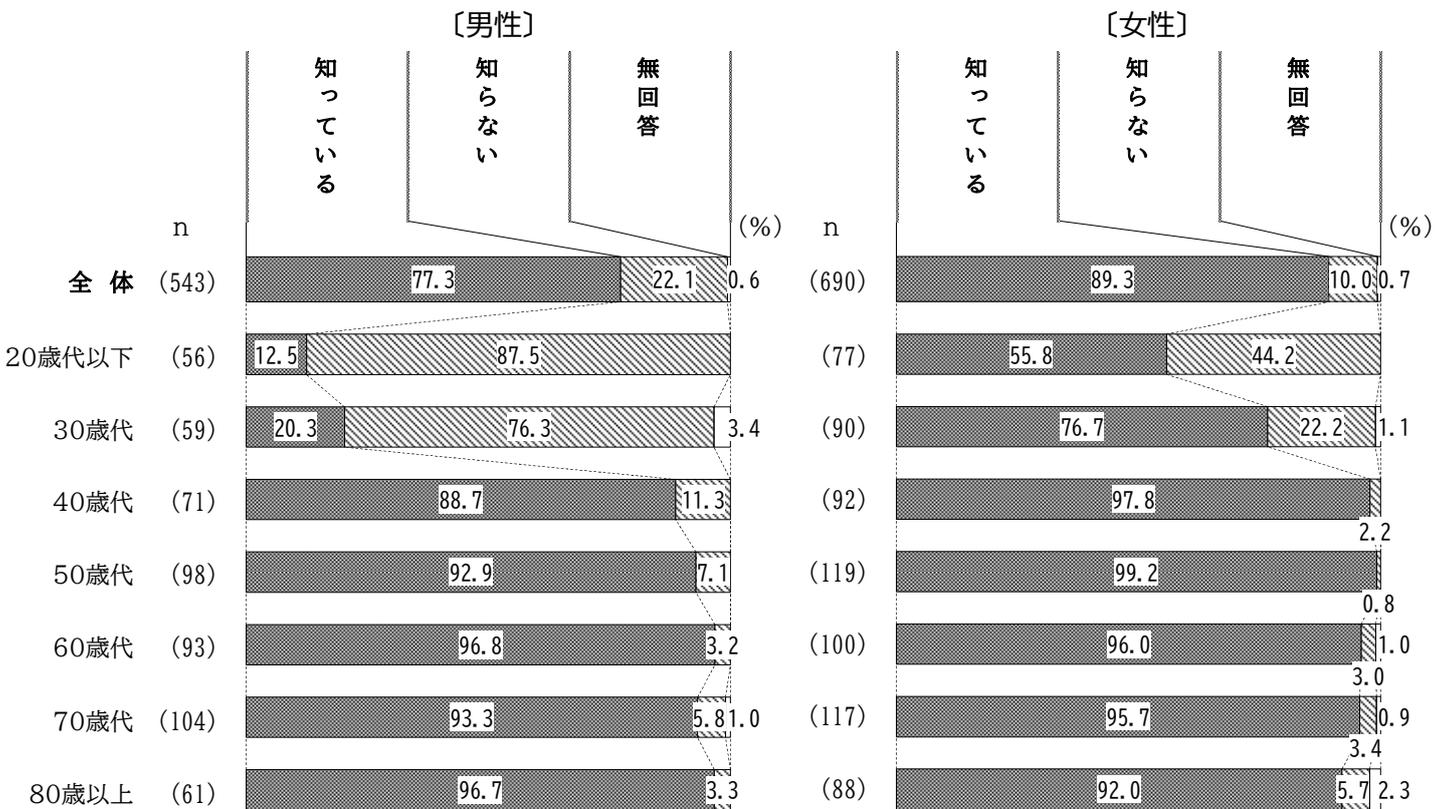


【性別、性／年代別】

性別で見ると、「知っている」(男性：77.3% 女性：89.3%)は、女性の方が男性よりも12.0ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、男女ともに、「知っている」は20歳代以下と30歳代を除いて8割台から9割を超えているが、男性の20歳代以下で12.5%、30歳代で20.3%にとどまっている。

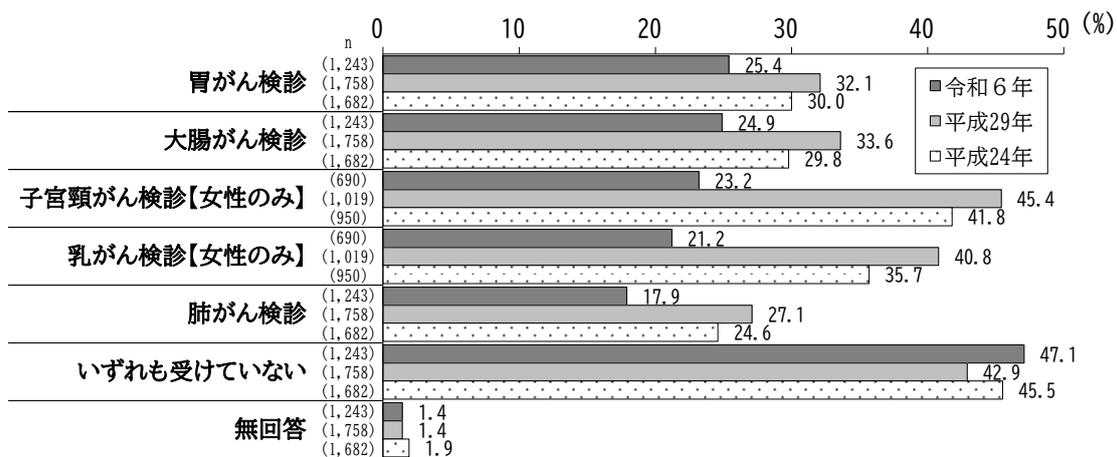
女性では、「知っている」は40歳代～70歳代で9割台半ば以上を占めている。



(4) がん検診の受診状況

1年または2年に1回は受けているがん検診は、「胃がん検診」が25.4%で最も高く、次いで「大腸がん検診」が24.9%、「子宮頸がん検診【女性のみ】」が23.2%、「乳がん検診【女性のみ】」が21.2%となっている。一方、「いずれも受けていない」が47.1%を占めている。

時系列で比較すると、すべてのがん検診の受診率が前回調査、前々回調査より減少しており、特に「子宮頸がん検診【女性のみ】」（令和6年：23.2% 平成29年：45.4% 平成24年：41.8%）と「乳がん検診【女性のみ】」（令和6年：21.2% 平成29年：40.8% 平成24年：35.7%）が前回調査、前々回調査より大幅に減少している。

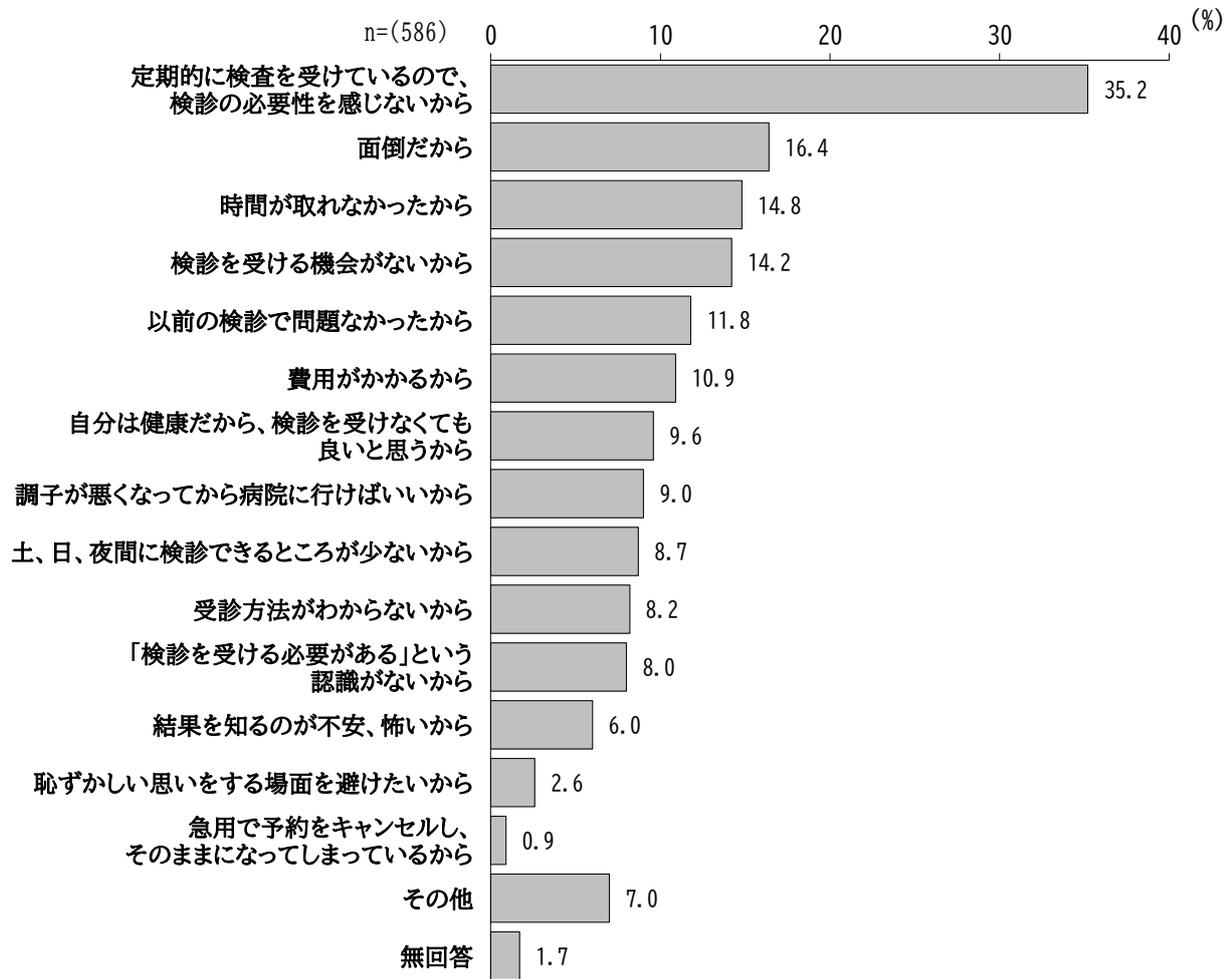


※前回調査までの調査では各検診について受診状況の有無を回答する形式となっている。

※今回調査の選択肢「いずれも受けていない」は、前回までの調査では、「がん検診をひとつも受けていない」となっている。

(5) がん検診を受けていない理由

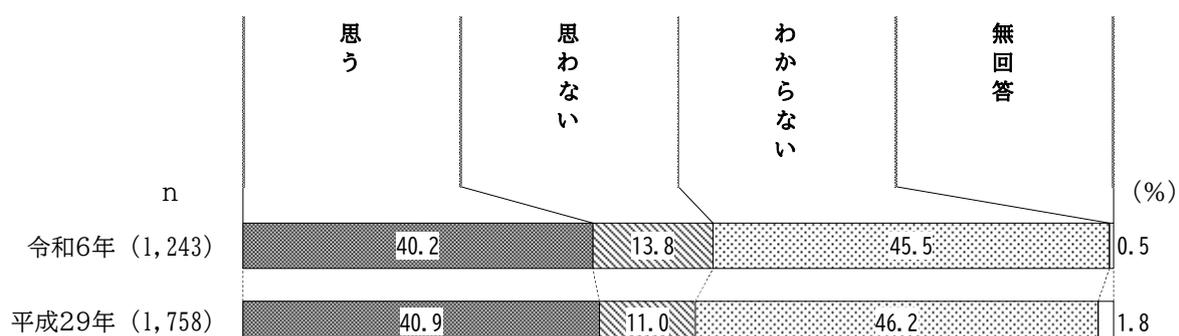
がん検診の受診状況で「いずれも受けていない」と回答した方にその理由をたずねた。その結果、「定期的に検査を受けているので、検診の必要性を感じないから」が35.2%で最も高く、次いで「面倒だから」が16.4%、「時間が取れなかったから」が14.8%、「検診を受ける機会がないから」が14.2%となっている。



(6) がん発病後の地域での暮らし

がん発病後にも今まで通り地域で暮らしていけると思うかは、「わからない」が45.5%で最も高く、次いで「思う」が40.2%、「思わない」が13.8%となっている。

時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



3. 食生活について

(1) 朝食の摂取状況

朝食の摂取状況は、「毎日とっている」が71.8%で最も高く、次いで「だいたいとっている（週4～6日）」が11.9%となっている。一方、「あまりとっていない（週2～3日）」（6.8%）と「ほとんどとっていない（週1日以下）」（9.3%）を合わせて、「とっていない（計）」は16.1%となっている。

時系列で比較すると、「毎日とっている」（令和6年：71.8% 平成29年：72.0% 平成24年：77.5%）が前々回調査より5.7ポイント減少している。

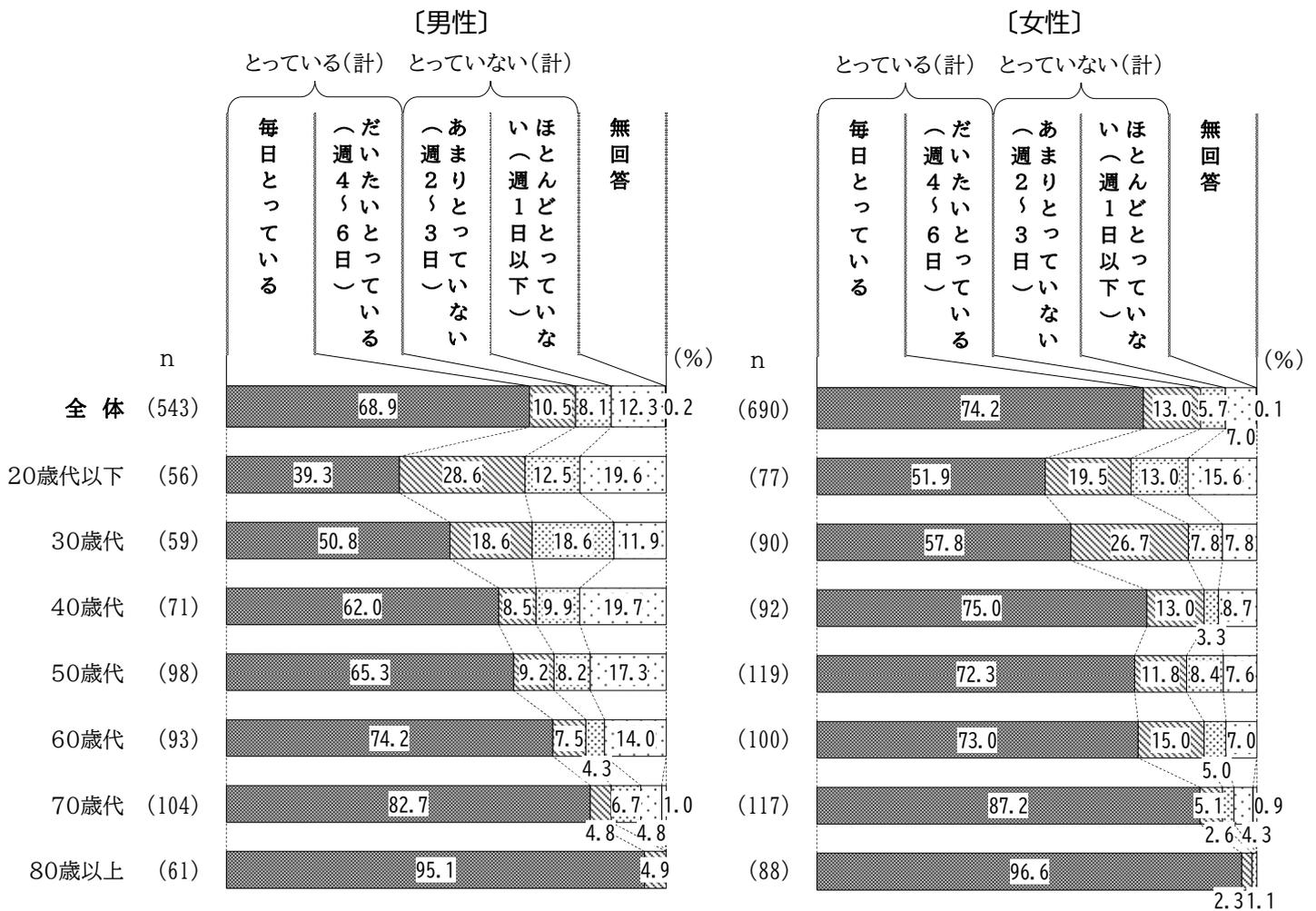


※前々回までの調査における選択肢「週2～6日はとっている」は、前回調査より「だいたいとっている（週4～6日）」、「あまりとっていない（週2～3日）」の2つに細分化された。

【性別、性／年代別】

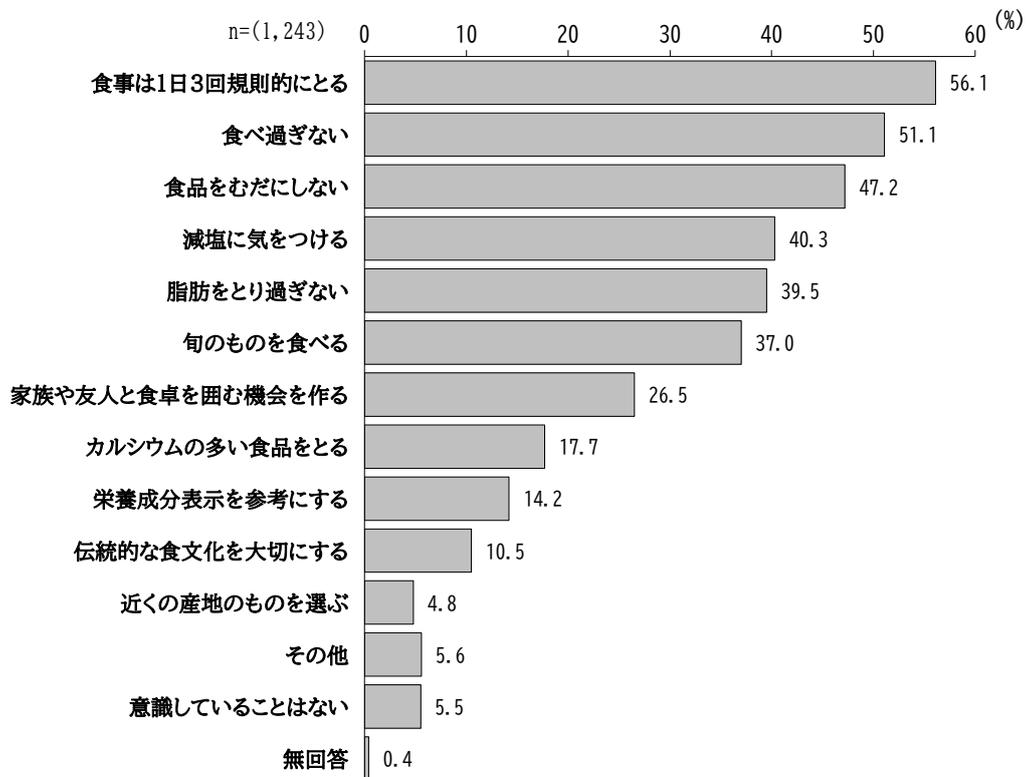
性別で見ると、「毎日とっている」（男性：68.9% 女性：74.2%）は、女性の方が男性よりも5.3ポイント高く、「とっている（計）」（男性：79.4% 女性：87.2%）は、女性の方が男性よりも7.8ポイント高くなっている。一方、「ほとんどとっていない」（男性：12.3% 女性：7.0%）は、男性の方が女性より5.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「毎日とっている」は男女ともに20歳代以下（男性：39.3% 女性：51.9%）が最も低く、おおむね年代が上がるほど高くなっており、「とっている（計）」も同様の傾向がみられる。一方、「とっていない（計）」は男女ともに20歳代以下（男性：32.1% 女性：28.6%）で最も高くなっており、男性で30歳代～40歳代も3割前後となっている。



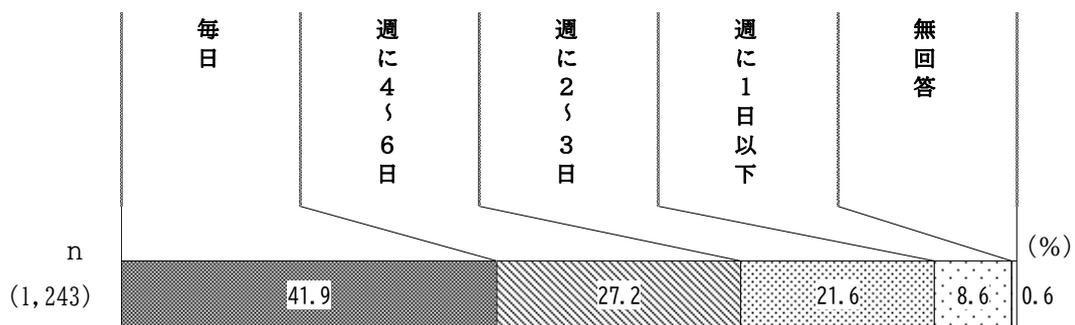
(2) 日頃の食生活で気をつけていること

日頃の食生活で気をつけていることは、「食事は1日3回規則的にとる」が56.1%で最も高く、次いで「食べ過ぎない」が51.1%、「食品をむだにしない」が47.2%、「減塩に気をつける」が40.3%となっている。



(3) 主食、主菜、副菜をそろえた食事の回数

主食、主菜、副菜をそろえた食事の回数は、「毎日」が41.9%で最も高く、次いで「週に4～6日」が27.2%、「週に2～3日」が21.6%、「週に1日以下」が8.6%となっている。

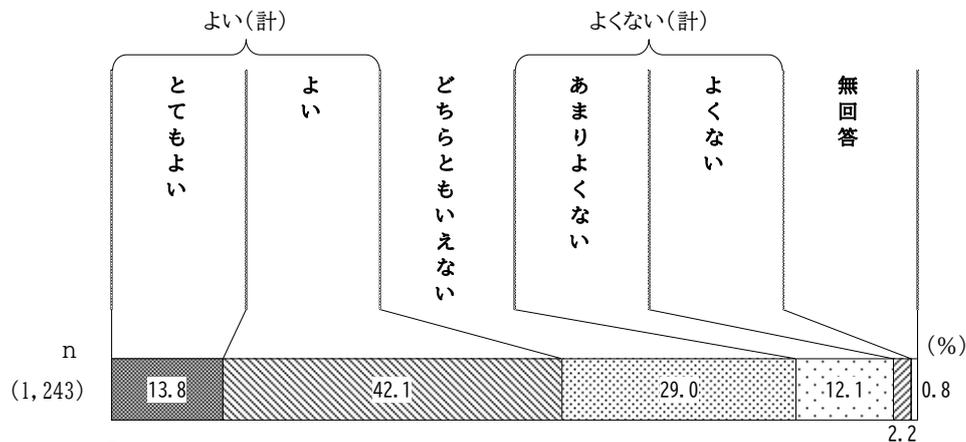


4. 健康づくりについて

(1) 健康状態

現在の健康状態は、「よい」が42.1%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が29.0%、「とてもよい」が13.8%となっている。

一方、「あまりよくない」(12.1%)と「よくない」(2.2%)を合わせて、「よくない(計)」は14.3%となっている。

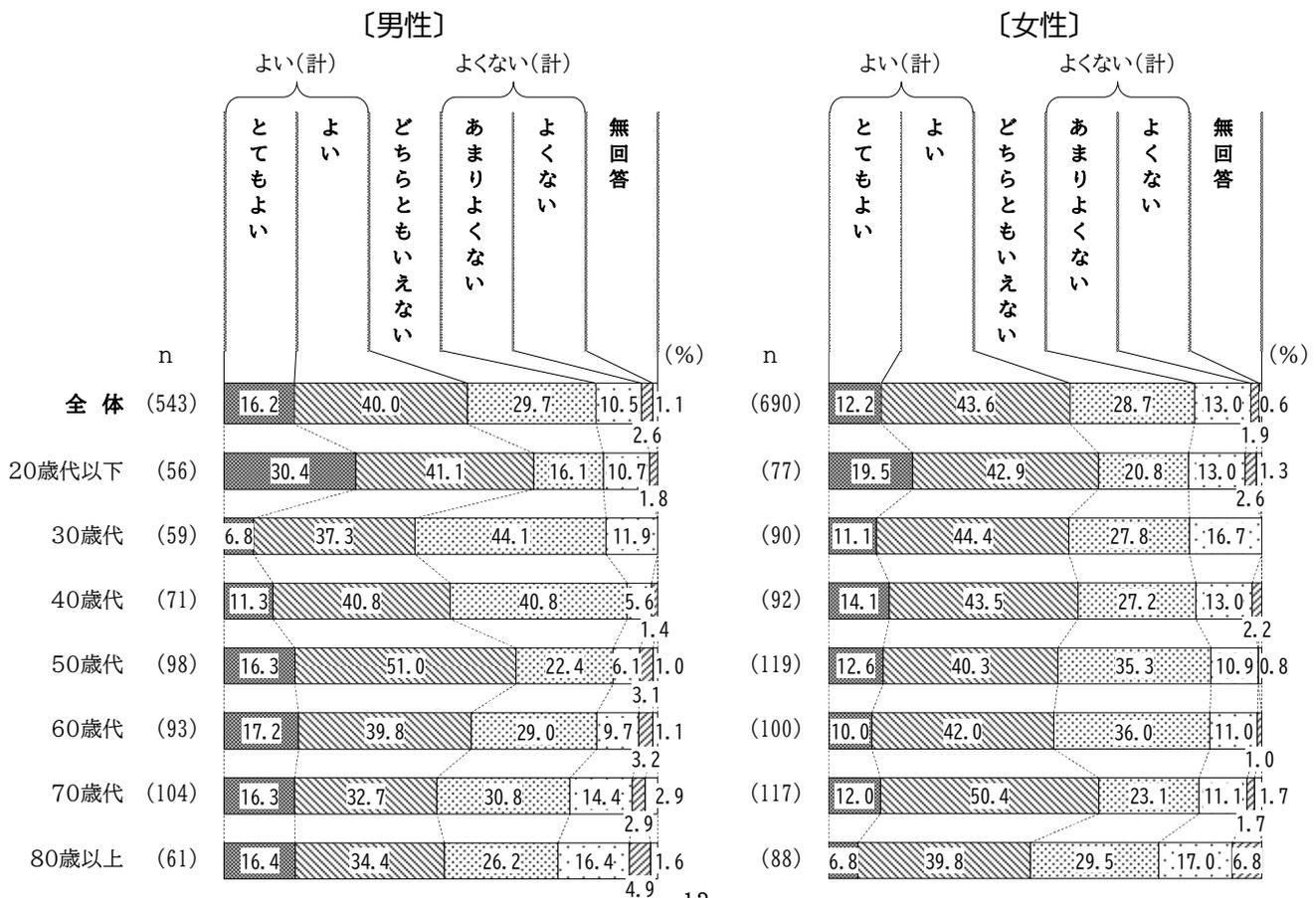


【性別、性／年代別】

性別でみると、特に大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、男性では、「よい(計)」は20歳代以下で71.5%と最も高く、次いで50歳代で67.3%となっており、30歳代で44.1%と最も低くなっている。

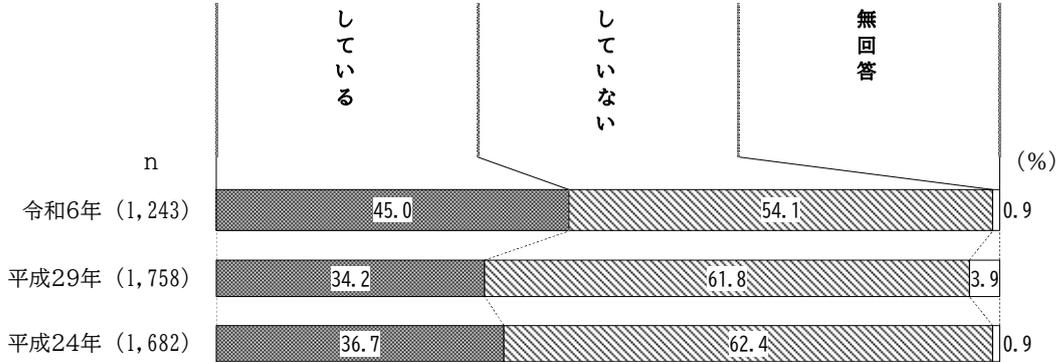
女性では、「よい(計)」は80歳以上を除くすべての年代で5割を超えているが、80歳以上は46.6%にとどまっている。



(2) 運動の状況

週2回以上、1日30分以上の軽く汗をかく運動を「している」が45.0%、「していない」が54.1%となっている。

時系列で比較すると、「している」(令和6年：45.0% 平成29年：34.2% 平成24年：36.7%)が前回調査より10.8ポイント、前々回調査より8.3ポイント増加している。

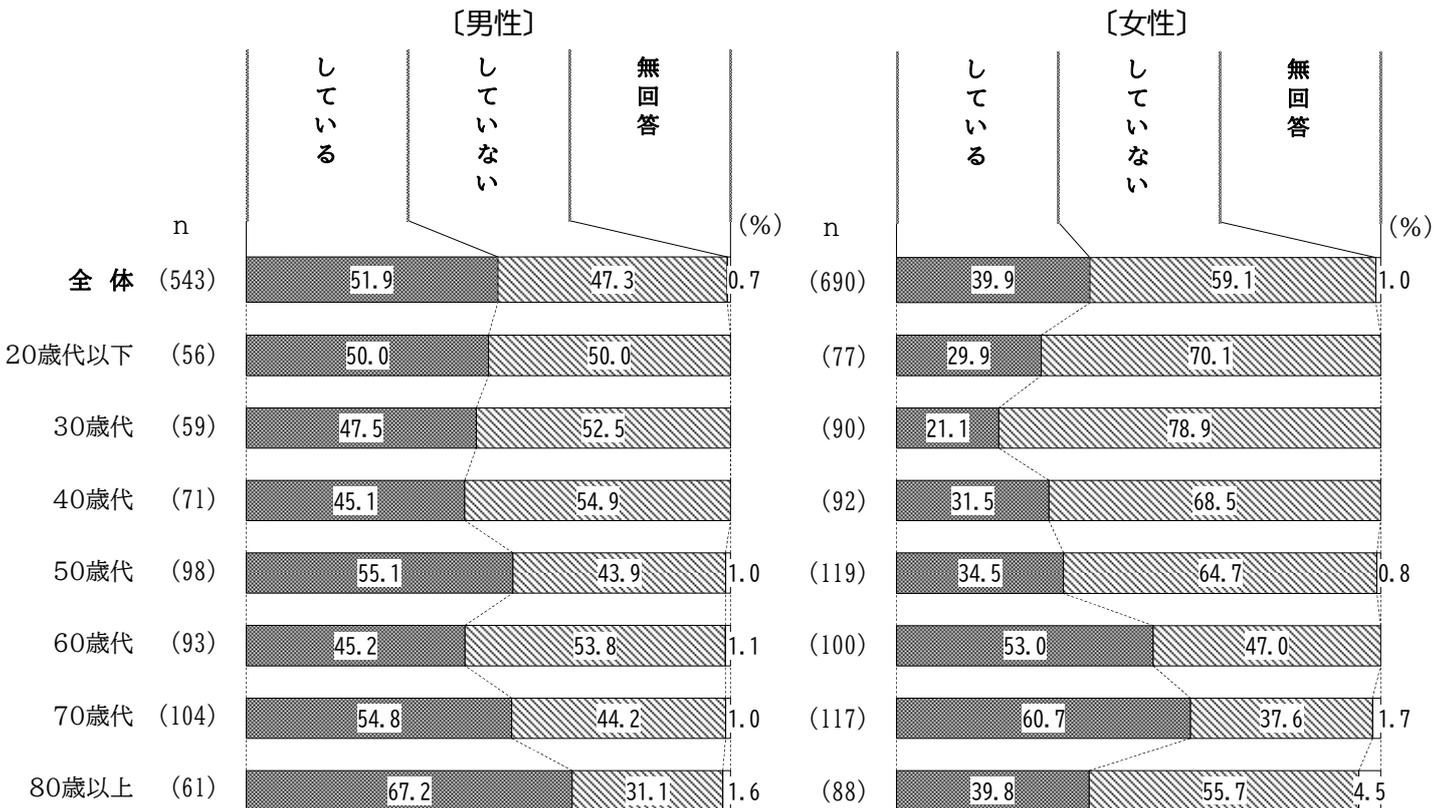


【性別、性/年代別】

性別で見ると、「している」(男性：51.9% 女性：39.9%)は、男性の方が女性よりも12.0ポイント高くなっている。一方、「していない」(男性：47.3% 女性：59.1%)は、女性の方が男性より11.8ポイント高くなっている。

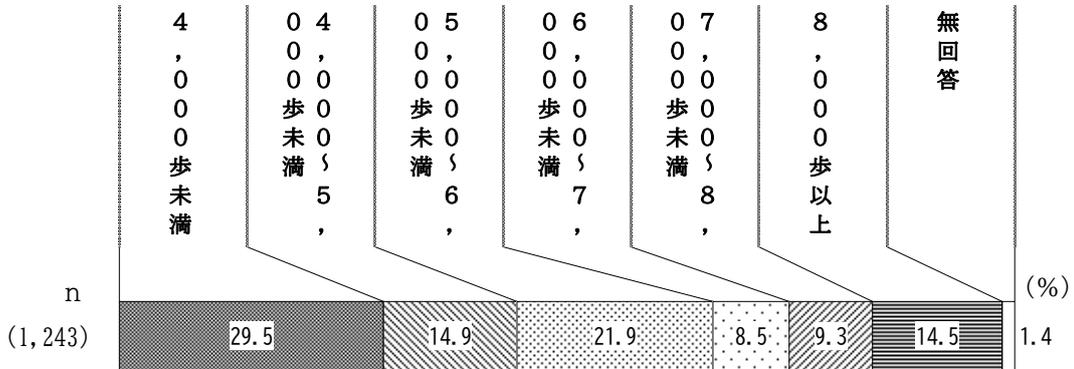
性/年代別で見ると、男性では、「している」は80歳以上で67.2%と最も高く、40歳代で45.1%、60歳代で45.2%と他の年代に比べて低くなっている。

女性では、「している」は70歳代で60.7%と最も高くなっている。一方、「していない」は30歳代で78.9%、20歳代以下で70.1%と高くなっている。



(3) 1日の歩数

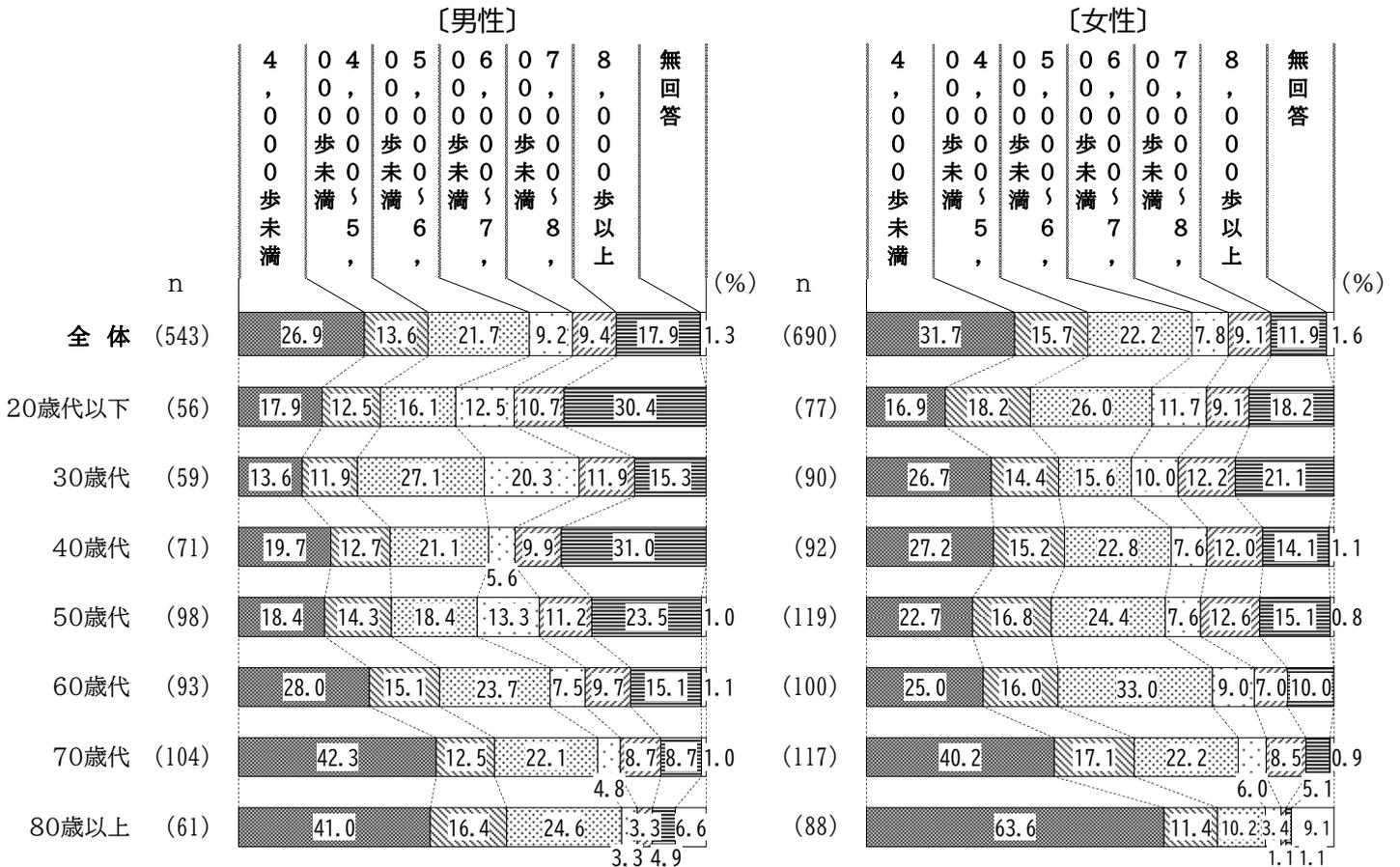
1日の歩数は、「4,000歩未満」が29.5%で最も高く、次いで「5,000～6,000歩未満」が21.9%、「4,000～5,000歩未満」が14.9%、「8,000歩以上」が14.5%となっている。



【性別、性／年代別】

性別で見ると、「8,000歩以上」(男性：17.9% 女性：11.9%)は、男性の方が女性よりも6.0ポイント高くなっている。

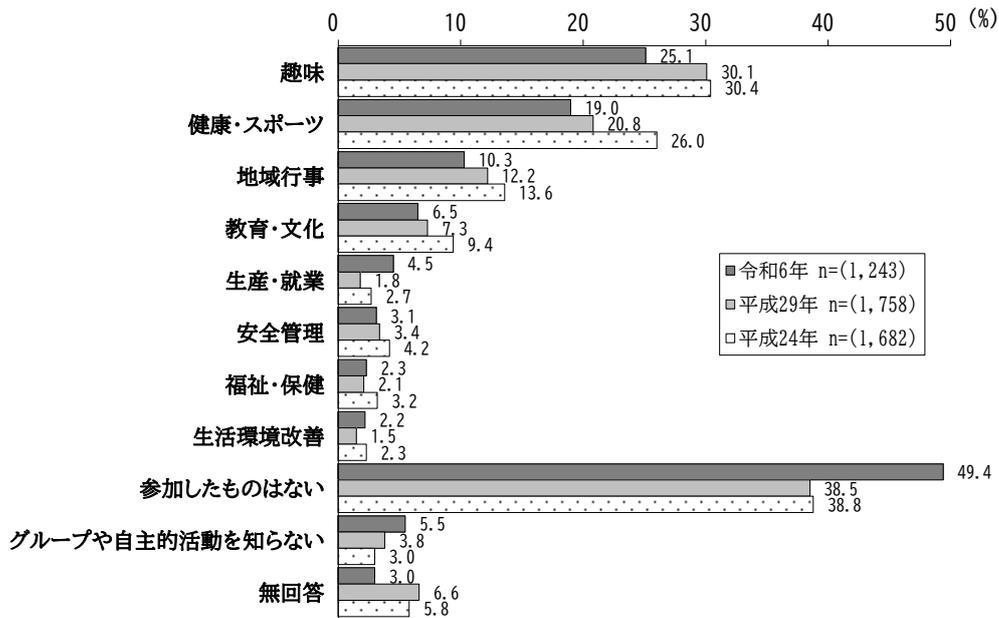
性／年代別で見ると、「8,000歩以上」は男性が40歳代で31.0%と高く、20歳代以下で30.4%と並んでおり、女性では30歳代で21.1%と最も高くなっている。一方、「4,000歩未満」は男女ともに70歳代と80歳以上で4割を超えており、特に女性の80歳代で63.6%と最も高くなっている。



(4) 各種活動への参加状況

この1年間に自主的に行われている各種活動への参加状況は、「趣味」が25.1%で最も高く、次いで「健康・スポーツ」が19.0%、「地域行事」が10.3%となっている。一方、「参加したものは無い」が49.4%を占めていた。

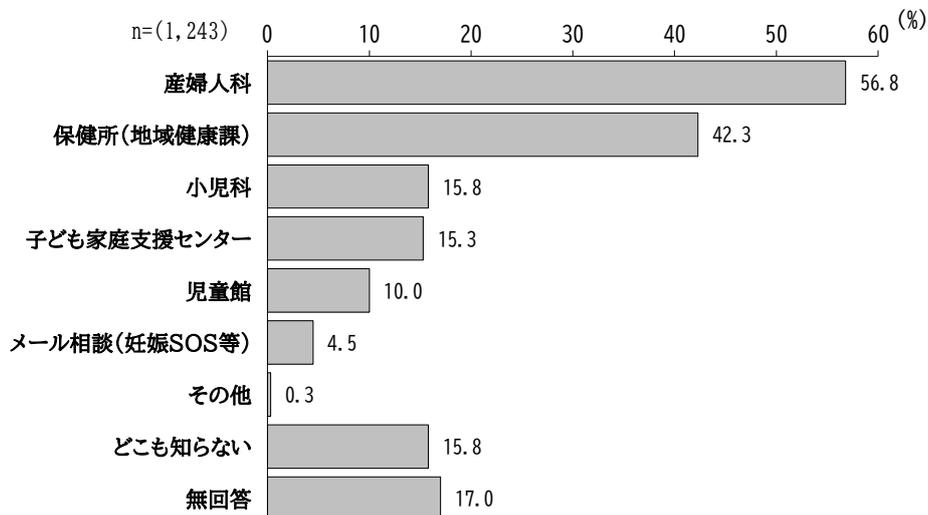
時系列で比較すると、「趣味」（令和6年：25.1% 平成29年：30.1% 平成24年：30.4%）が前回調査より5.0ポイント、前々回調査より5.3ポイント減少している。一方、「参加したものは無い」（令和6年：49.4% 平成29年：38.5% 平成24年：38.8%）が前回調査より10.9ポイント、前々回調査より10.6ポイント増加している。



5. 妊娠・出産について

(1) 妊娠・出産に関する相談場所の認知度

妊娠・出産に関する相談ができる場所の認知状況は、「産婦人科」が56.8%で最も高く、次いで「保健所（地域健康課）」が42.3%、「小児科」が15.8%となっている。一方、「どこも知らない」が15.8%となっている。

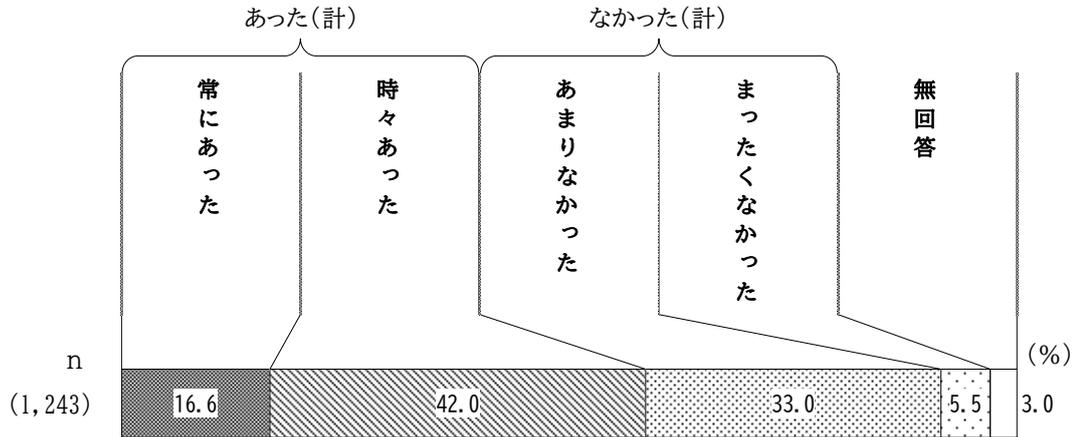


6. こころの健康について

(1) ストレスの状況

最近1か月の（不満、悩み、苦勞などによる）ストレスは、「常にあった」（16.6%）と「時々あった」（42.0%）を合わせて、《あった（計）》は58.6%となっている。

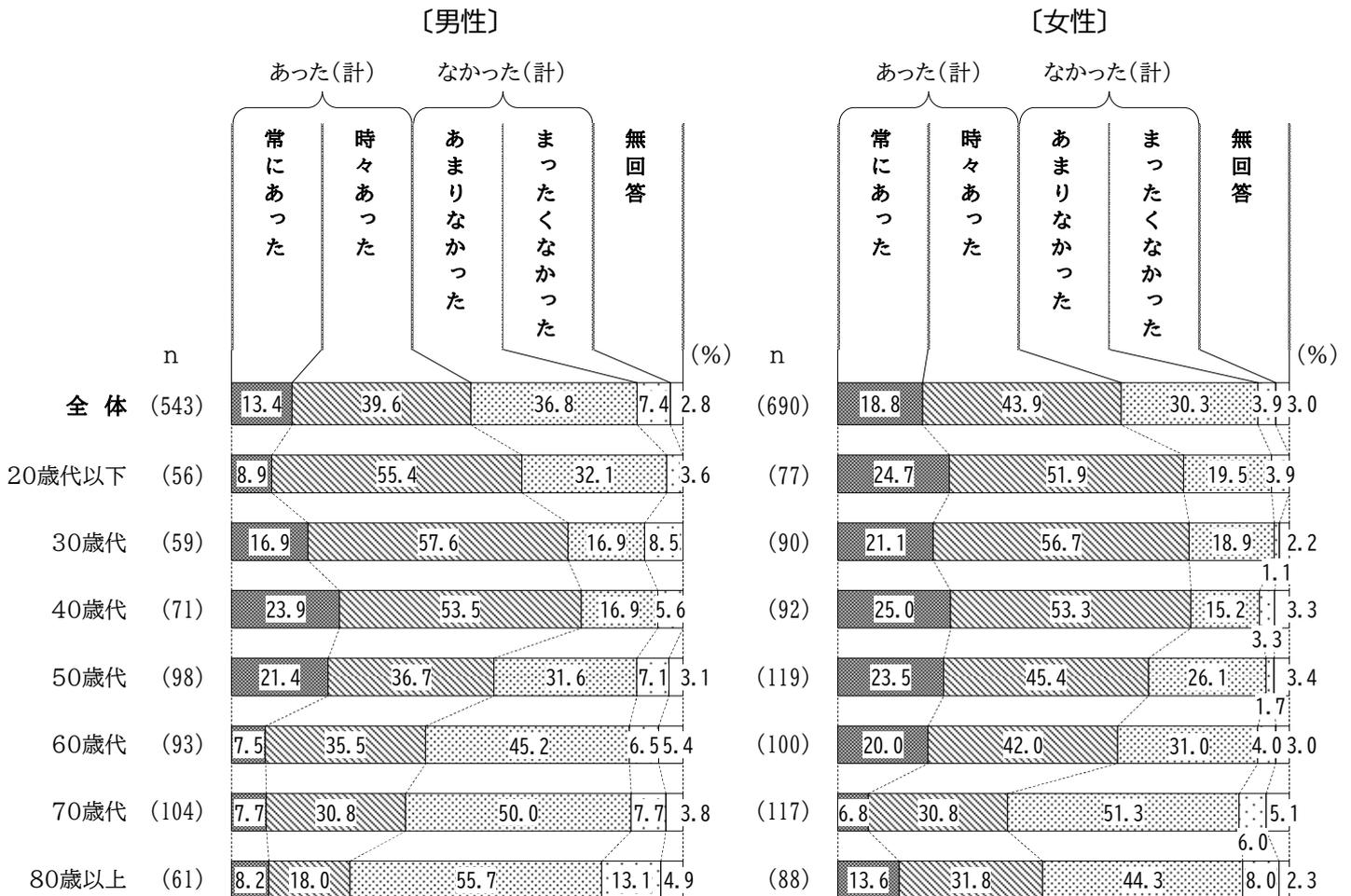
一方「あまりなかった」（33.0%）と「まったくなかった」（5.5%）を合わせて、《なかった（計）》は38.5%となっている。



【性別、性／年代別】

性別で見ると、「常にあった」（男性：13.4% 女性：18.8%）は、女性の方が男性よりも5.4ポイント高くなっており、「あった（計）」（男性：53.0% 女性：62.7%）は、女性の方が男性より9.7ポイント高くなっている。

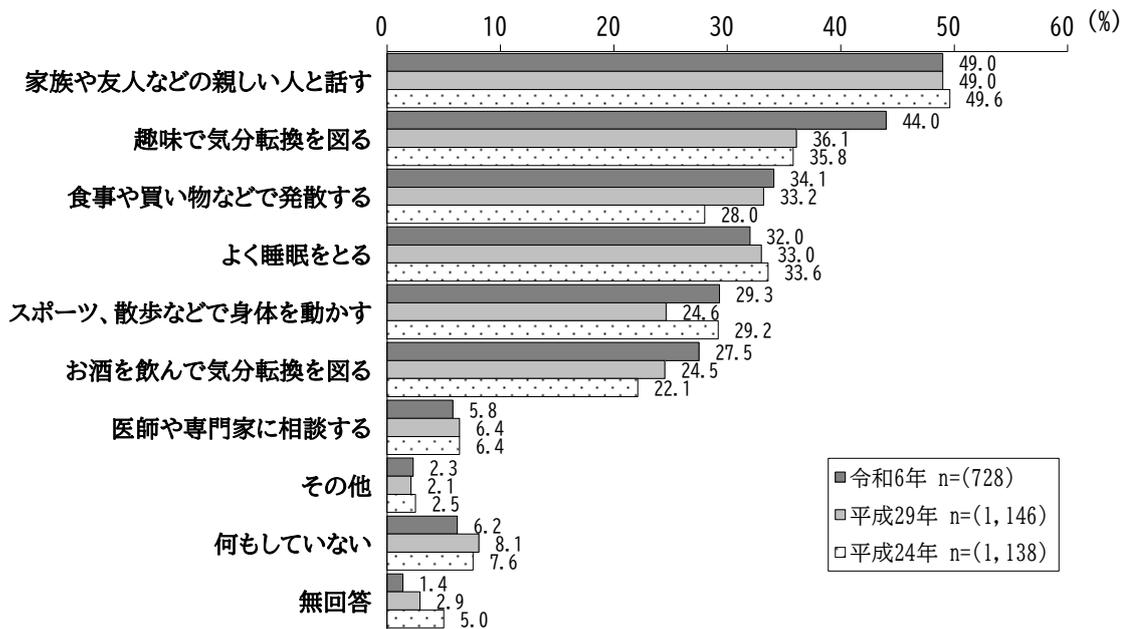
性／年代別で見ると、「あった（計）」は男性では40歳代で77.4%、30歳代で74.5%と他の年代に比べて高くなっている。また、女性では40歳代で78.3%と最も高く、30歳代で77.8%、20歳代以下で76.6%と並んでいる。一方、「なかった（計）」は男性の80歳以上で68.8%と最も高く、男性では60歳以上、女性では70歳以上でいずれも5割を超えている。



(2) ストレスの解消方法

ストレスの状況で「常にあった」、「時々あった」と回答した方にストレスの解消方法をたずねた。その結果、「家族や友人などの親しい人と話す」が49.0%で最も高く、次いで「趣味で気分転換を図る」が44.0%、「食事や買い物などで発散する」が34.1%、「よく睡眠をとる」が32.0%となっている。

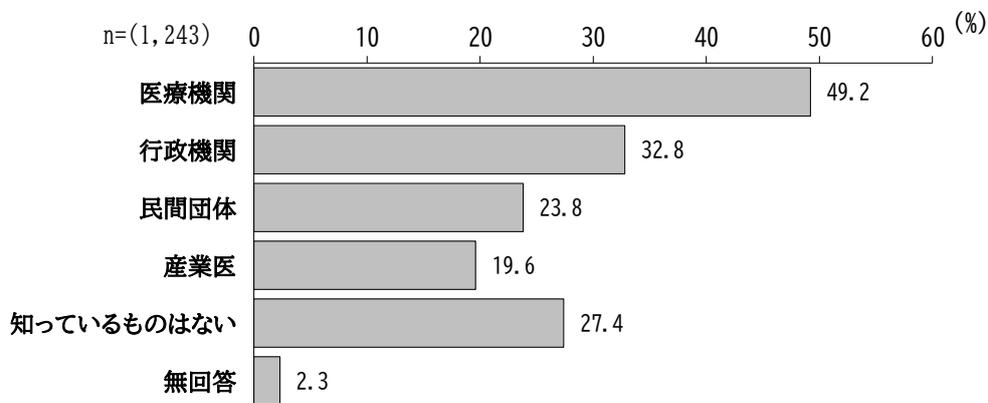
時系列で比較すると、「趣味で気分転換を図る」（令和6年：44.0% 平成29年：36.1% 平成24年：35.8%）が前回調査より7.9ポイント、前々回調査より8.2ポイント増加している。「食事や買い物などで発散する」（令和6年：34.1% 平成29年：33.2% 平成24年：28.0%）が前々回調査より6.1ポイント増加している。



7. 自殺対策について

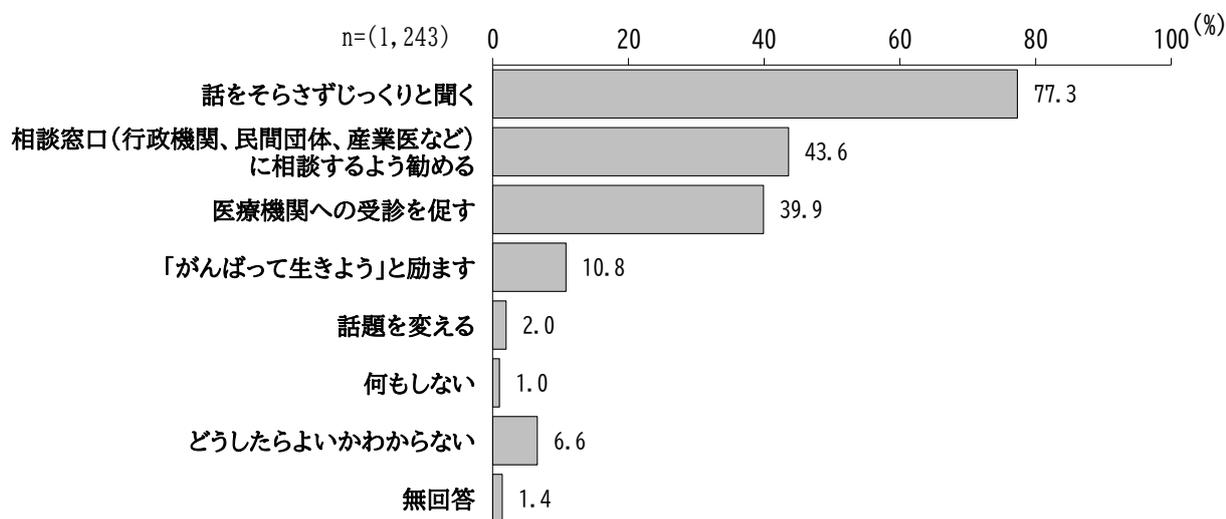
(1) こころの健康や自殺に関する相談先

こころの健康や自殺に関する相談先は、「医療機関」が49.2%で最も高く、次いで「行政機関」が32.8%、「民間団体」が23.8%となっている。一方、「知っているものはない」が27.4%となっている。



(2) 「死にたい」と打ち明けられた場合の対処法

身近な人から「死にたい」と打ち明けられた場合の対処法は、「話をそらさずじっくりと聞く」が77.3%で最も高く、次いで「相談窓口（行政機関、民間団体、産業医など）に相談するよう勧める」が43.6%、「医療機関への受診を促す」が39.9%となっている。

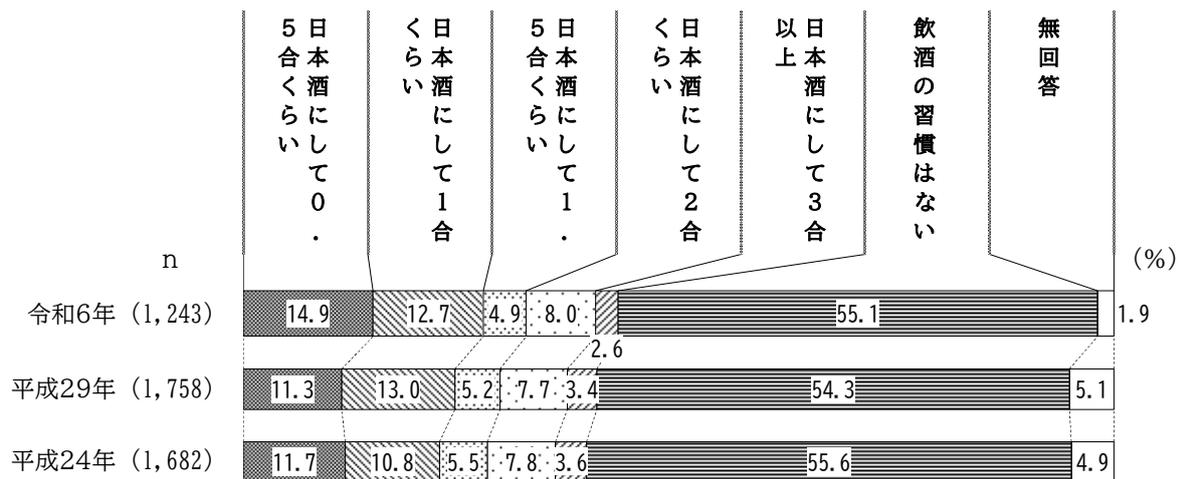


8. アルコール・たばこについて

(1) 1日あたりの飲酒量

1日あたりの飲酒量は、「日本酒にして0.5合くらい」が14.9%、「日本酒にして1合くらい」が12.7%、「日本酒にして2合くらい」が8.0%となっている。一方、「飲酒の習慣はない」が55.1%を占めている。

時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



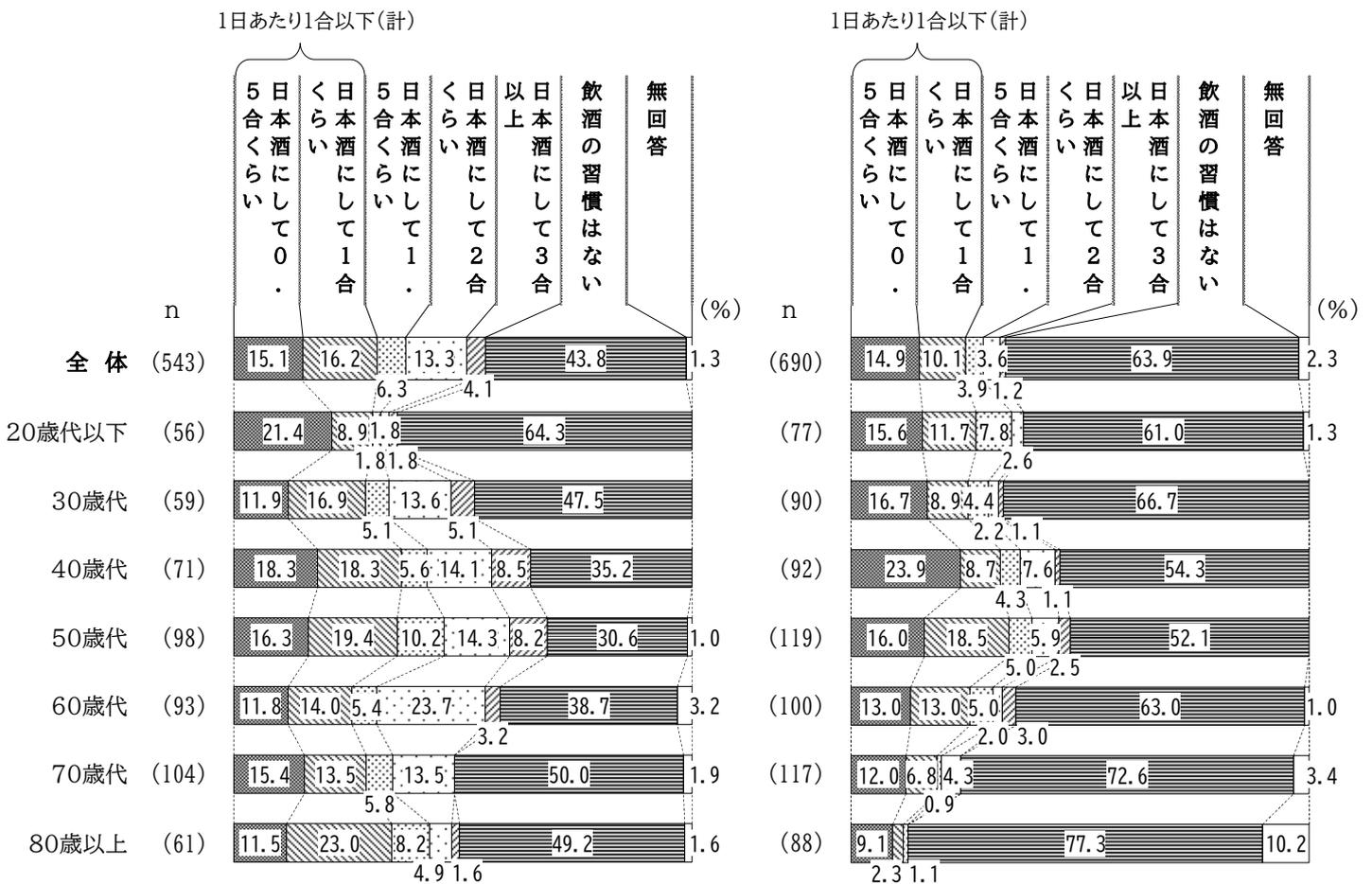
【性別、性／年代別】

性別でみると、「1日あたり1合以下（計）」（男性：31.3% 女性：25.0%）は、男性の方が女性よりも6.3ポイント高くなっている。また、「日本酒にして2合くらい」（男性：13.3% 女性：3.6%）も、男性の方が女性よりも9.7ポイント高くなっている。一方、「飲酒の習慣はない」（男性：43.8% 女性：63.9%）は、女性の方が男性よりも20.1ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「1日あたり1合以下（計）」は男性の40歳代で36.6%と最も高く、次いで50歳代で35.7%と並び、女性では50歳代で34.5%と最も高く、次いで40歳代で32.6%と並んでいる。「日本酒にして2合くらい」は男性が60歳代で23.7%と最も高くなっている。一方、「飲酒の習慣はない」は男性の20歳代以下で64.3%と最も高く、50歳代で30.6%と最も低くなっている。女性ではすべての年代で5割を超えており、80歳以上で77.3%と最も高く、70歳代で72.6%と並んでいる。

〔男性〕

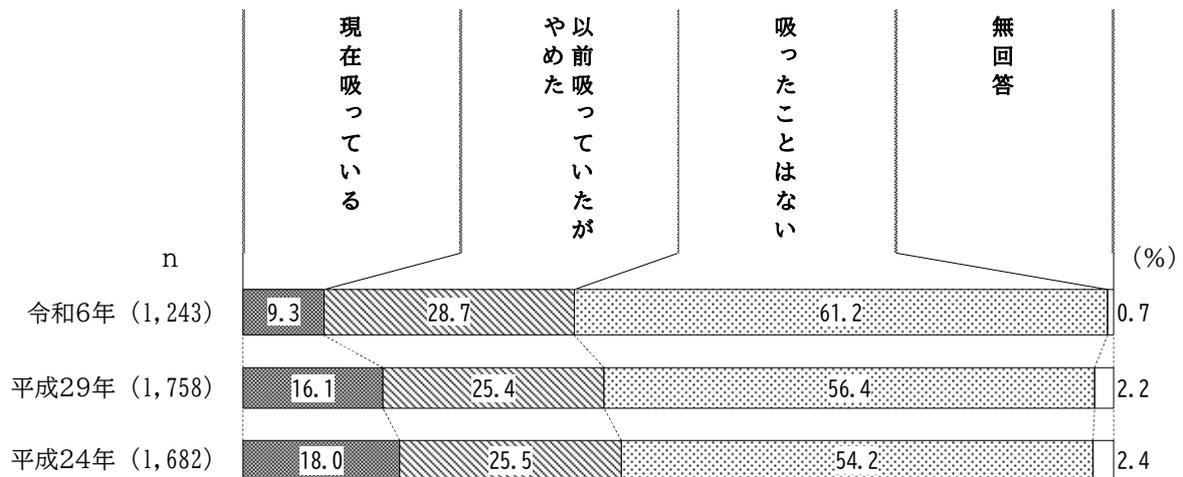
〔女性〕



(2) 喫煙状況

喫煙状況は、「現在吸っている」が9.3%、「以前吸っていたがやめた」が28.7%、「吸ったことはない」が61.2%となっている。

時系列で比較すると、「現在吸っている」（令和6年：9.3% 平成29年：16.1% 平成24年：18.0%）が前回調査より6.8ポイント、前々回調査より8.7ポイント減少している。一方、「吸ったことはない」（令和6年：61.2% 平成29年：56.4% 平成24年：54.2%）が前回調査より4.8ポイント、前々回調査より7.0ポイント増加している。

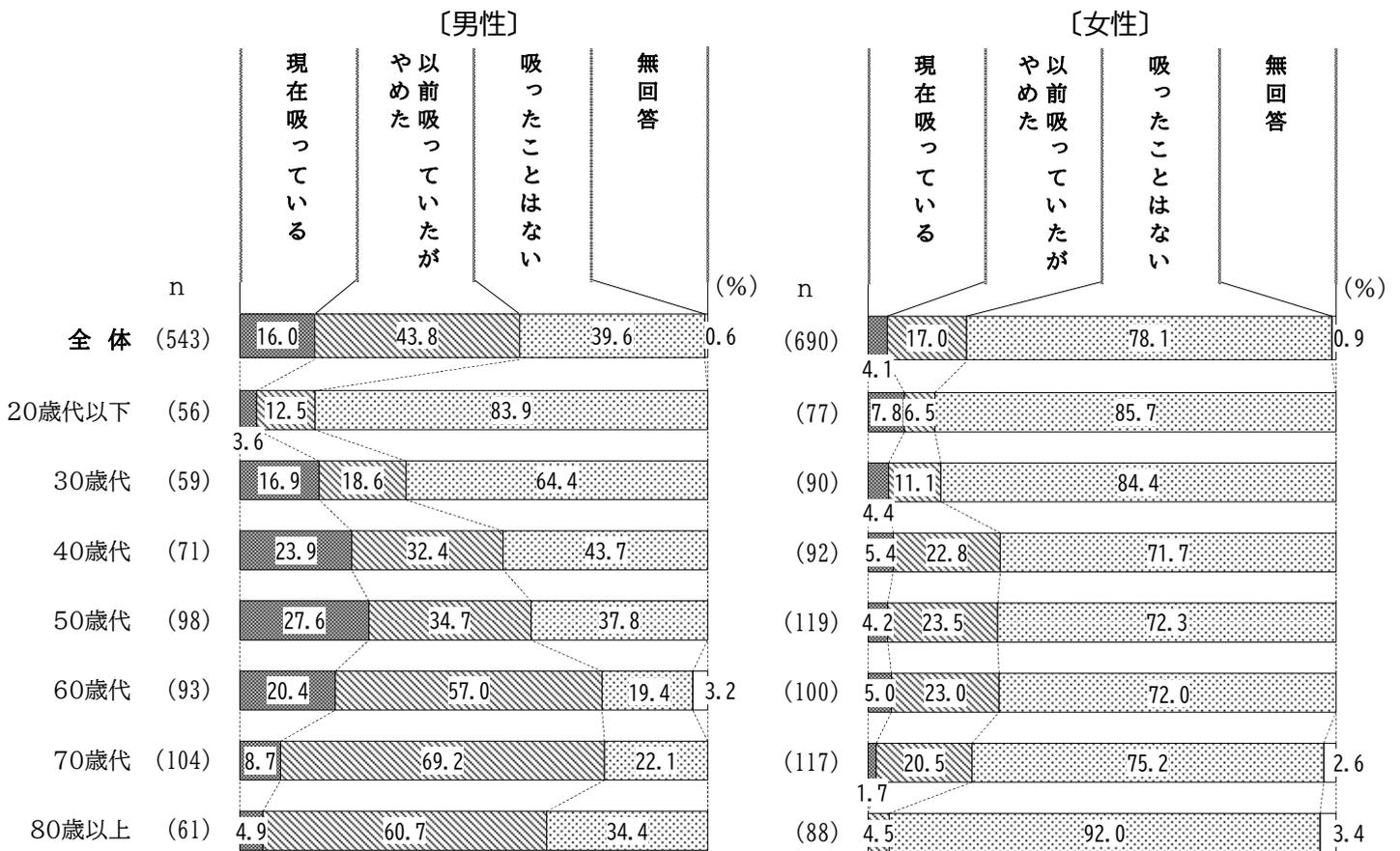


【性別、性／年代別】

性別で見ると、「現在吸っている」（男性：16.0% 女性：4.1%）は、男性の方が女性よりも11.9ポイント高くなっている。また、「以前吸っていたがやめた」（男性：43.8% 女性：17.0%）でも、男性は26.8ポイント上回る。一方、「吸ったことはない」（男性：39.6% 女性：78.1%）は、女性の方が男性よりも38.5ポイント高くなっている。

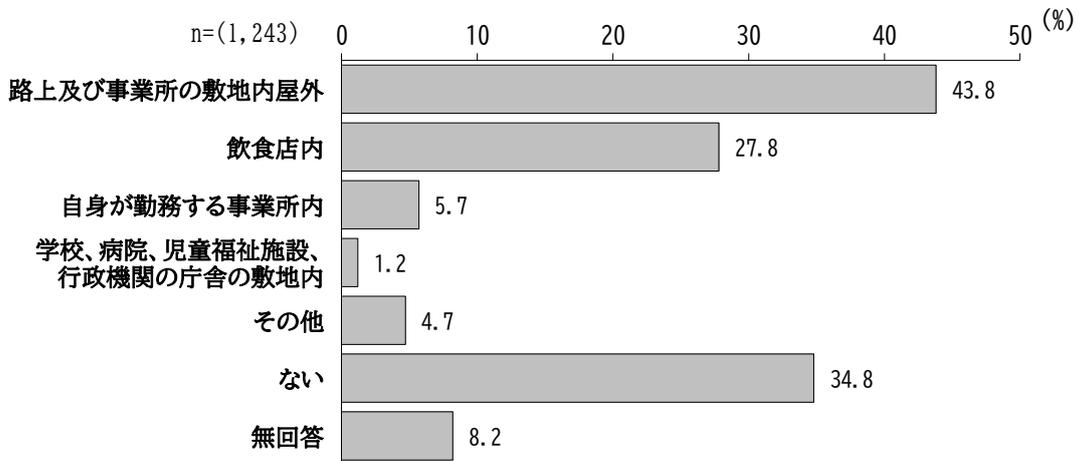
性／年代別で見ると、男性では、「現在吸っている」は50歳代で27.6%と最も高く、次いで40歳代で23.9%となっている。「吸ったことはない」は20歳代以下で83.9%と最も高く、30歳代で64.4%となっている。

女性では、「以前吸っていたがやめた」は40歳代～70歳代で2割台となっている。また、「吸ったことはない」は80歳以上で92.0%と最も高く、次いで20歳代以下で85.7%、30歳代で84.4%となっている。



(3) 受動喫煙の経験場所

1年以内の受動喫煙を経験した場所は、「路上及び事業所の敷地内屋外」が43.8%で最も高く、次いで「飲食店内」が27.8%、「自身が勤務する事業所内」が5.7%となっている。一方、「ない」が34.8%となっている。

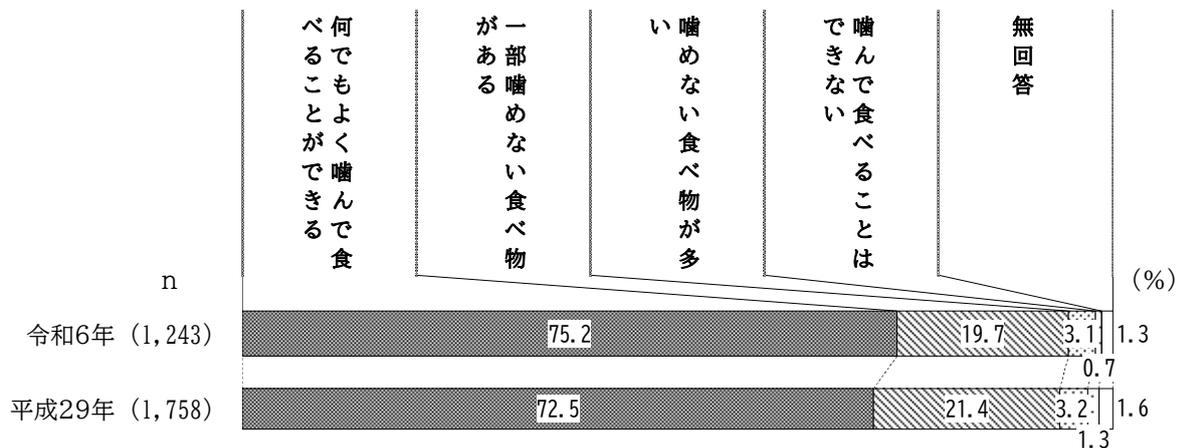


9. 歯の健康について

(1) 固いものでもよく噛んで食べることができるか

固いものでもよく噛んで食べることができるかは、「何でもよく噛んで食べることができる」が75.2%で最も高く、次いで「一部噛めない食べ物がある」が19.7%となっている。

時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。

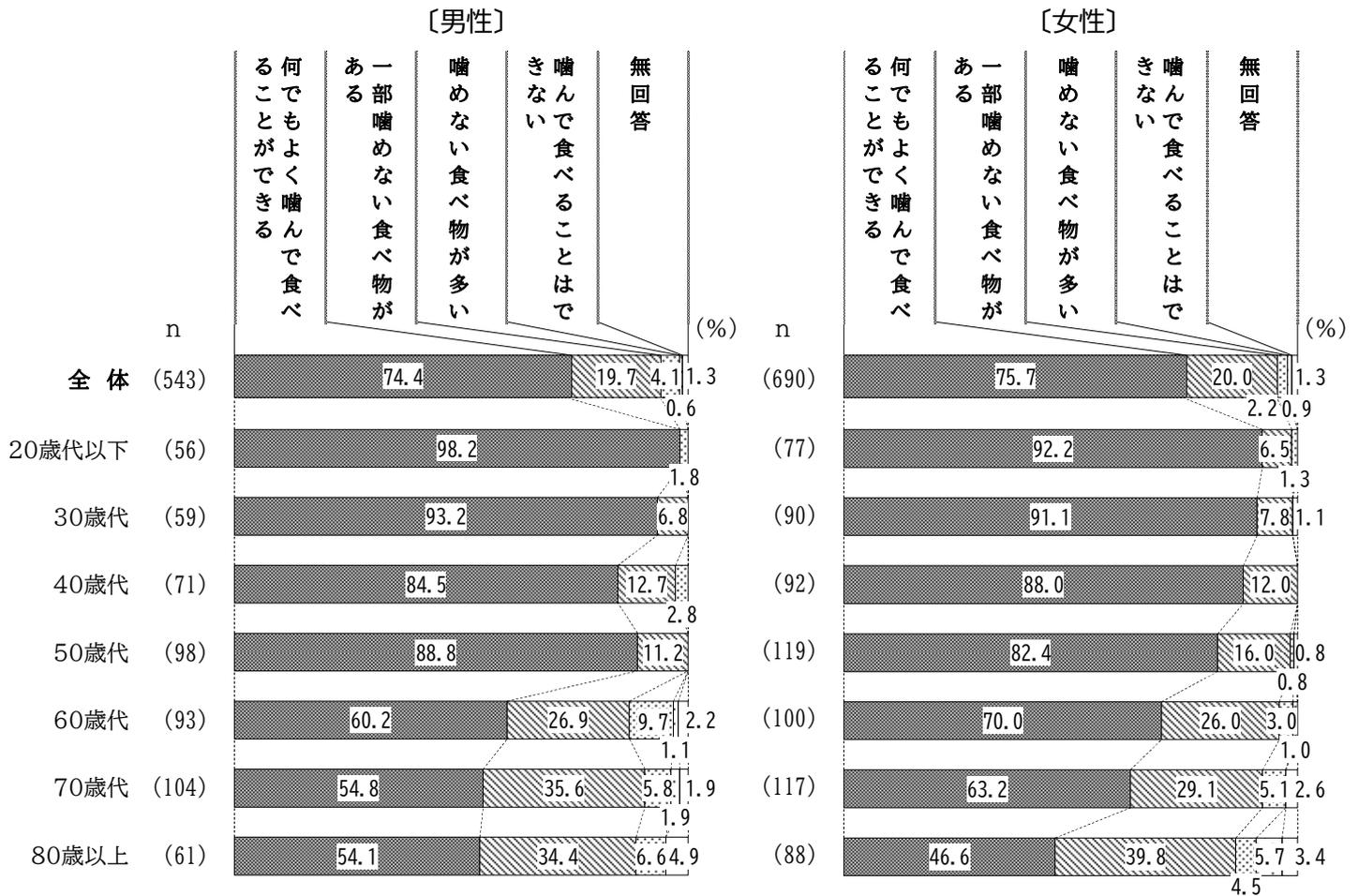


【性別、性／年代別】

性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

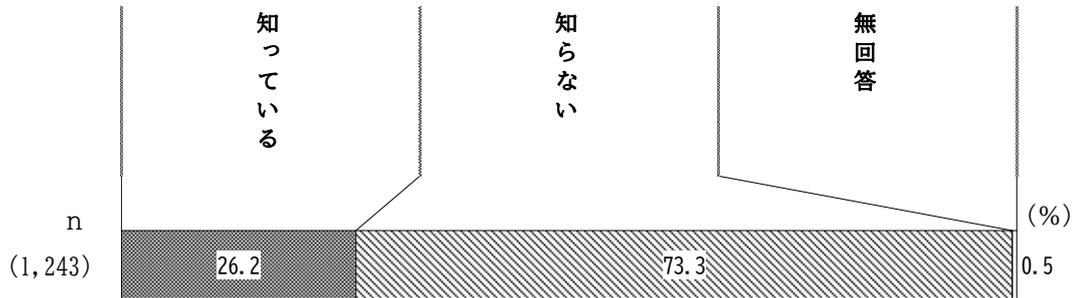
性／年代別で見ると、男性では「何でもよく噛んで食べることができる」は20歳代以下～50歳代で8割台～9割台の一方、60歳代で60.2%、70歳代～80歳以上で5割台半ばとなっている。「一部噛めない食べ物がある」は60歳以上で高くなっており、70歳代で35.6%と最も高く、80歳以上で34.4%と並んでいる。

女性では、「何でもよく噛んで食べることができる」は20歳代以下で92.2%と最も高く、年代が上がるほど低くなっている。「一部噛めない食べ物がある」は年代が上がるほど高くなり、80歳以上で39.8%と最も高くなっている。



(2) オーラルフレイルの認知度

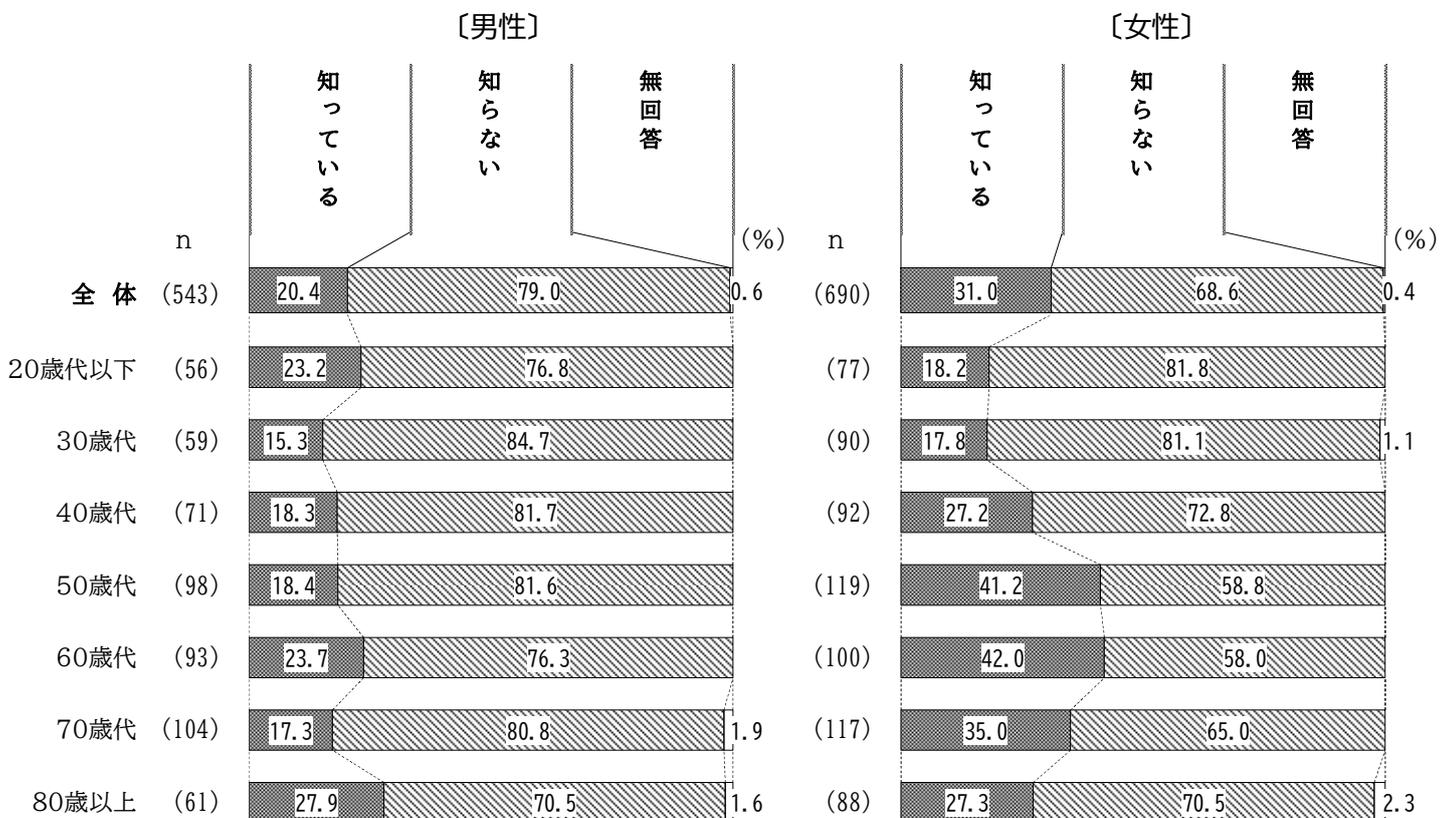
オーラルフレイルの認知度は、「知っている」が26.2%、「知らない」が73.3%となっている。



【性別、性／年代別】

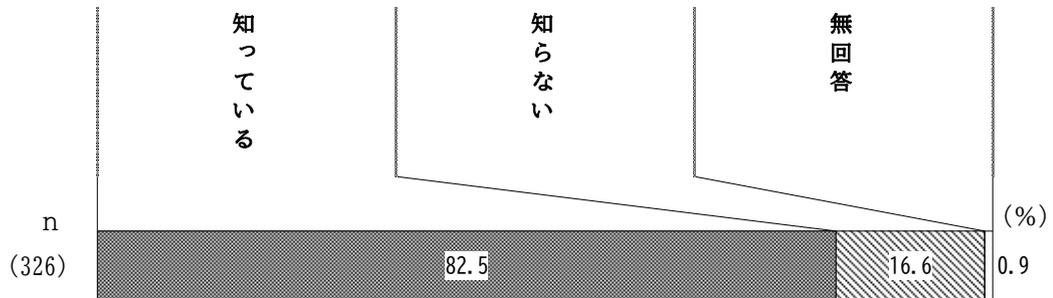
性別で見ると、「知っている」（男性：20.4% 女性：31.0%）は、女性の方が男性よりも10.6ポイント高くなっている。一方、「知らない」（男性：79.0% 女性：68.6%）は、男性が10.4ポイント上回る。

性／年代別で見ると、「知っている」は男性では80歳以上で27.9%と最も高くなっており、20歳代と60歳代でも2割台となっている。女性では60歳代で42.0%、50歳代で41.2%と他の年代に比べて高くなっている。一方、「知らない」は、男性では30歳代で84.7%と最も高くなっており、女性では20歳代以下で81.8%と最も高く、30歳代で81.1%と並んでいる。



(3) 口腔ケアと誤えん性肺炎の関連性の認知度

オーラルフレイルの認知度で「知っている」と回答した方に口腔ケアと誤えん性肺炎の関連性の認知度をたずねた。その結果、「知っている」が82.5%、「知らない」が16.6%となっている。



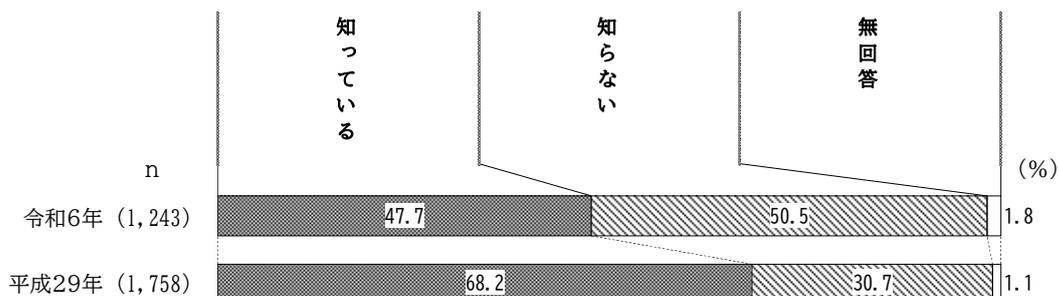
10. 感染症対策について

(1) 結核の認知度

①症状は2週間以上続く咳、痰、息苦しさ、体重減少などである

「知っている」が47.7%、「知らない」が50.5%となっている。

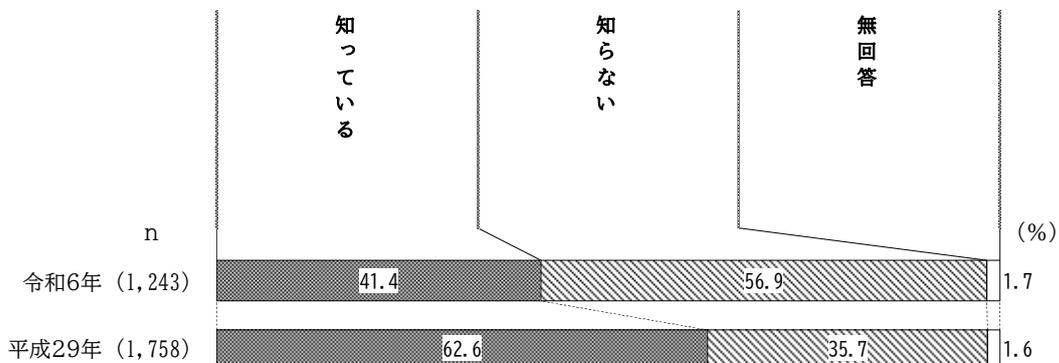
時系列で比較すると、「知っている」（令和6年：47.7% 平成29年：68.2%）が前回調査より20.5ポイント減少している。



②日本では現在も多くの患者が発生している

「知っている」が41.4%、「知らない」が56.9%、となっている。

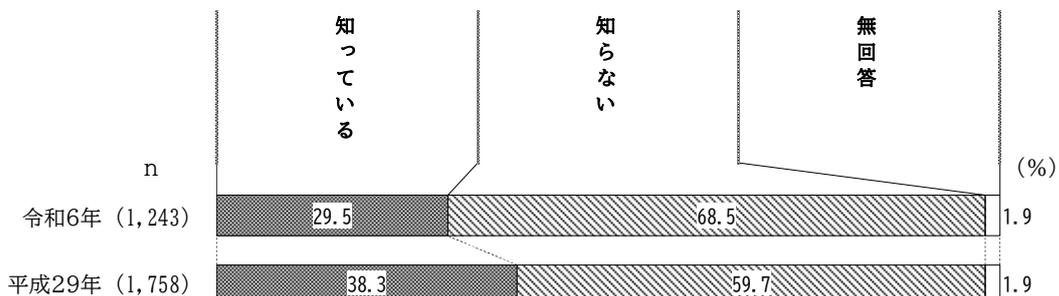
時系列で比較すると、「知っている」（令和6年：41.4% 平成29年：62.6%）が前回調査より21.2ポイント減少している。



③半年から1年程度薬を飲めば治すことができる

「知っている」が29.5%、「知らない」が68.5%、となっている。

時系列で比較すると、「知っている」（令和6年：29.5% 平成29年：38.3%）が前回調査より8.8ポイント減少している。

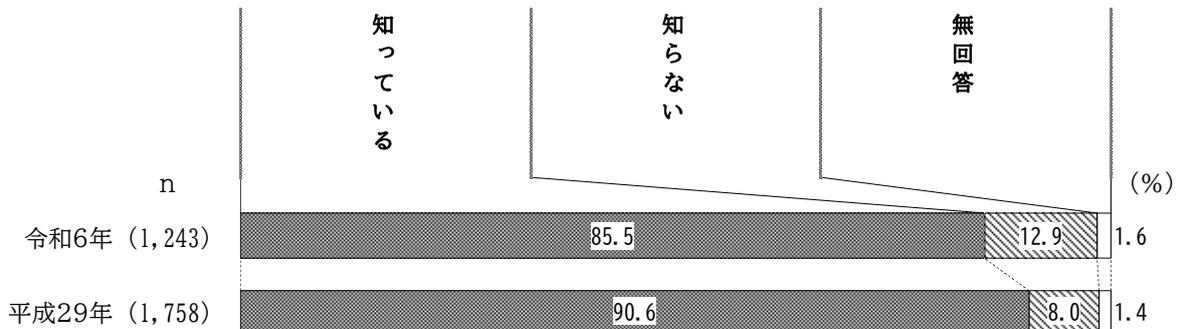


(2) HIV/エイズの認知度

①血液検査で発見できる

「知っている」が85.5%、「知らない」が12.9%となっている。

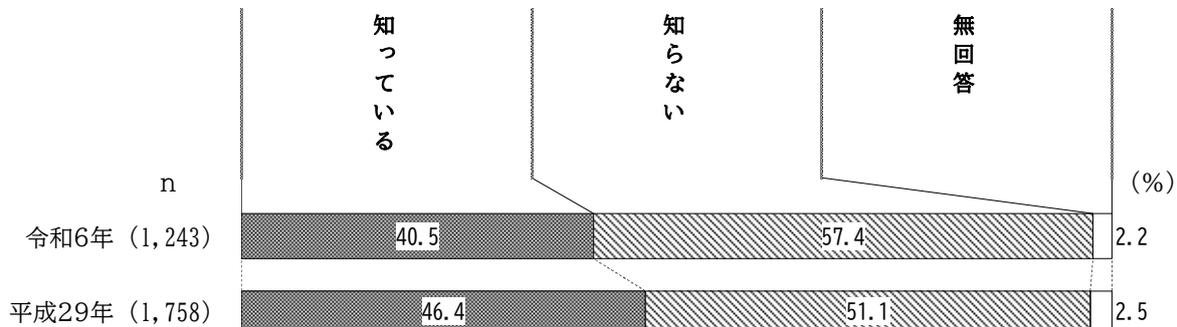
時系列で比較すると、「知っている」（令和6年：85.5% 平成29年：90.6%）が前回調査より5.1ポイント減少している。



②全国の保健所で無料で検査ができる

「知っている」が40.5%、「知らない」が57.4%となっている。

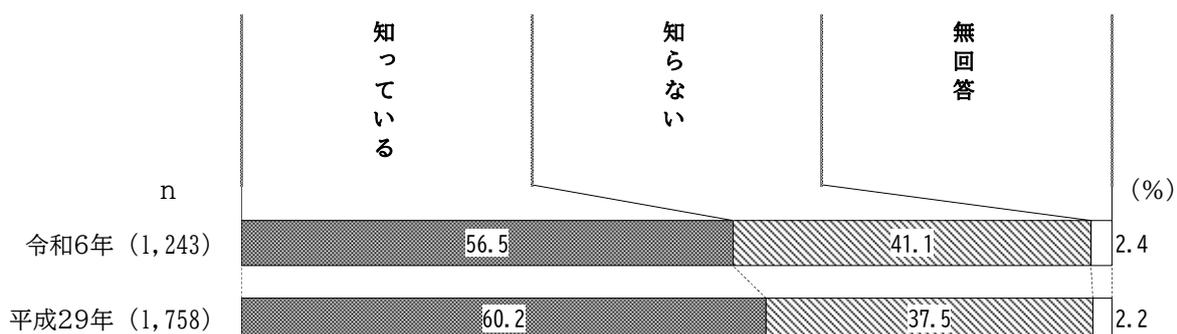
時系列で比較すると、「知っている」（令和6年：40.5% 平成29年：46.4%）が前回調査より5.9ポイント減少している。



③早期に発見し治療すれば普通の生活ができる

「知っている」が56.5%、「知らない」が41.1%となっている。

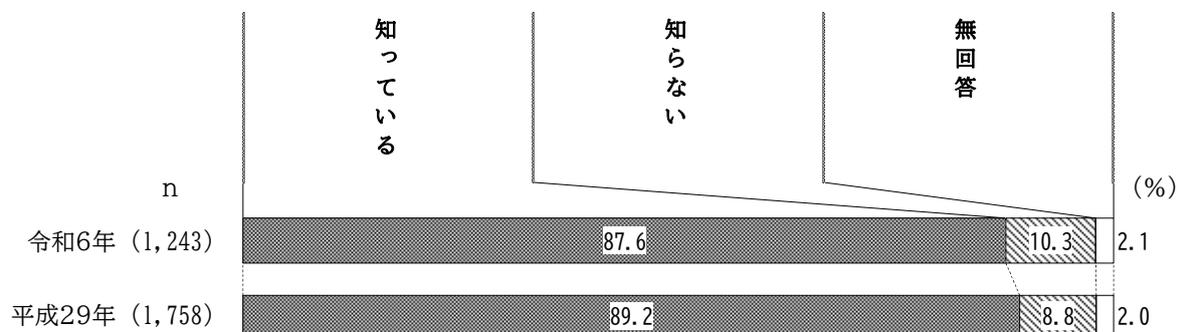
時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



④予防にはコンドームが有効である

「知っている」が87.6%、「知らない」が10.3%となっている。

時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



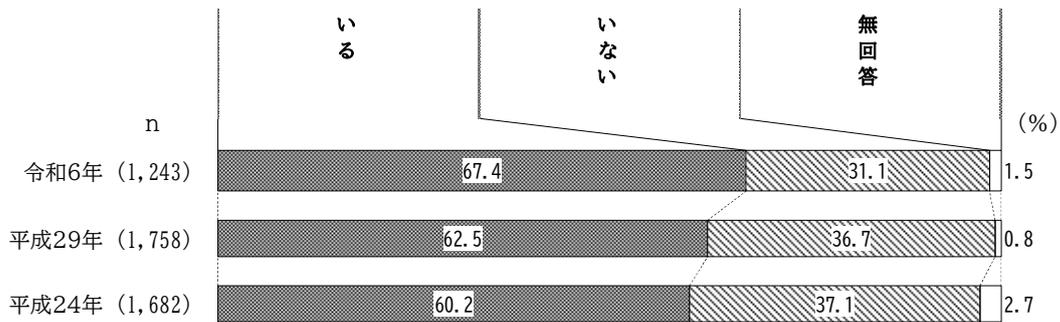
11. 地域医療について

(1) かかりつけ医の有無

① かかりつけ医

かかりつけ医は、「いる」が67.4%、「いない」が31.1%となっている。

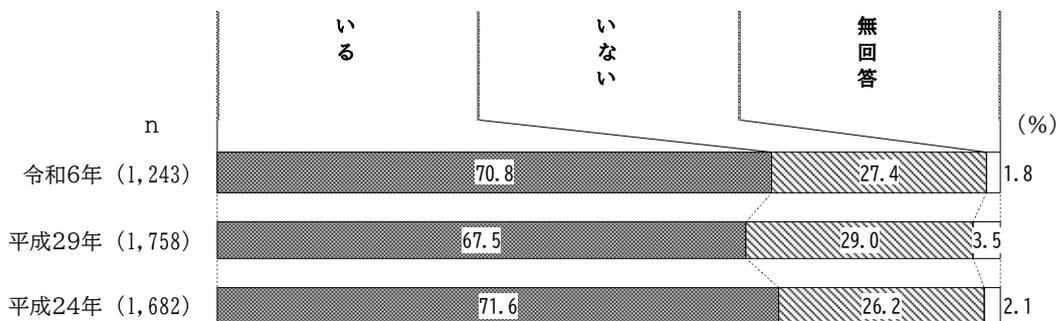
時系列で比較すると、「いる」(令和6年：67.4% 平成29年：62.5% 平成24年：60.2%)が前回調査より4.9ポイント、前々回調査より7.2ポイント増加している。



② かかりつけ歯科医

かかりつけ歯科医は、「いる」が70.8%、「いない」が27.4%となっている。

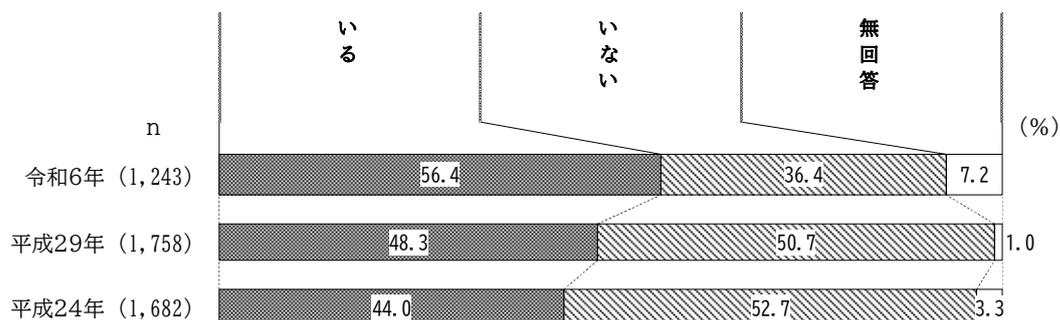
時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



③ かかりつけ薬局

かかりつけ薬局は、「いる」が56.4%、「いない」が36.4%となっている。

時系列で比較すると、「いる」(令和6年：56.4% 平成29年：48.3% 平成24年：44.0%)が前回調査より8.1ポイント、前々回調査より12.4ポイント増加している。



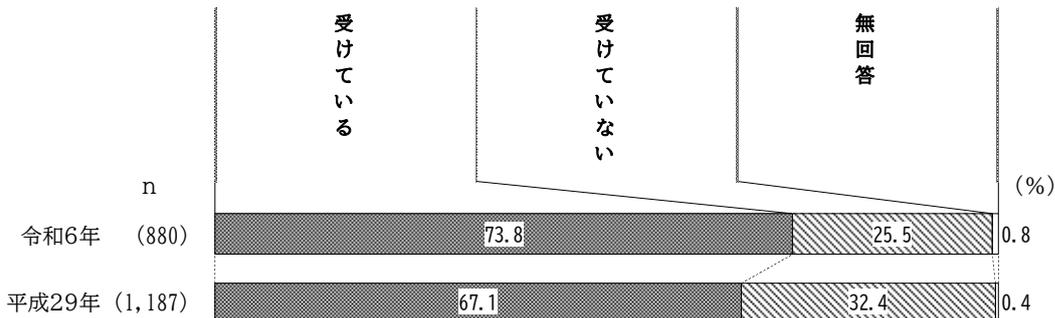
(2) かかりつけ歯科医での定期検診状況

(問33の②かかりつけ歯科医で「いる」と回答した方におたずねします。)

問33-1 かかりつけ歯科医で、年1回以上の定期検診を受けていますか。(○は1つ)

かかりつけ歯科医の有無で「いる」と回答した方にかかりつけ歯科医での定期検診状況をたずねた。その結果、「受けている」が73.8%、「受けていない」が25.5%となっている。

時系列で比較すると、「受けている」(令和6年：73.8% 平成29年：67.1%)が前回調査より6.7ポイント増加している。

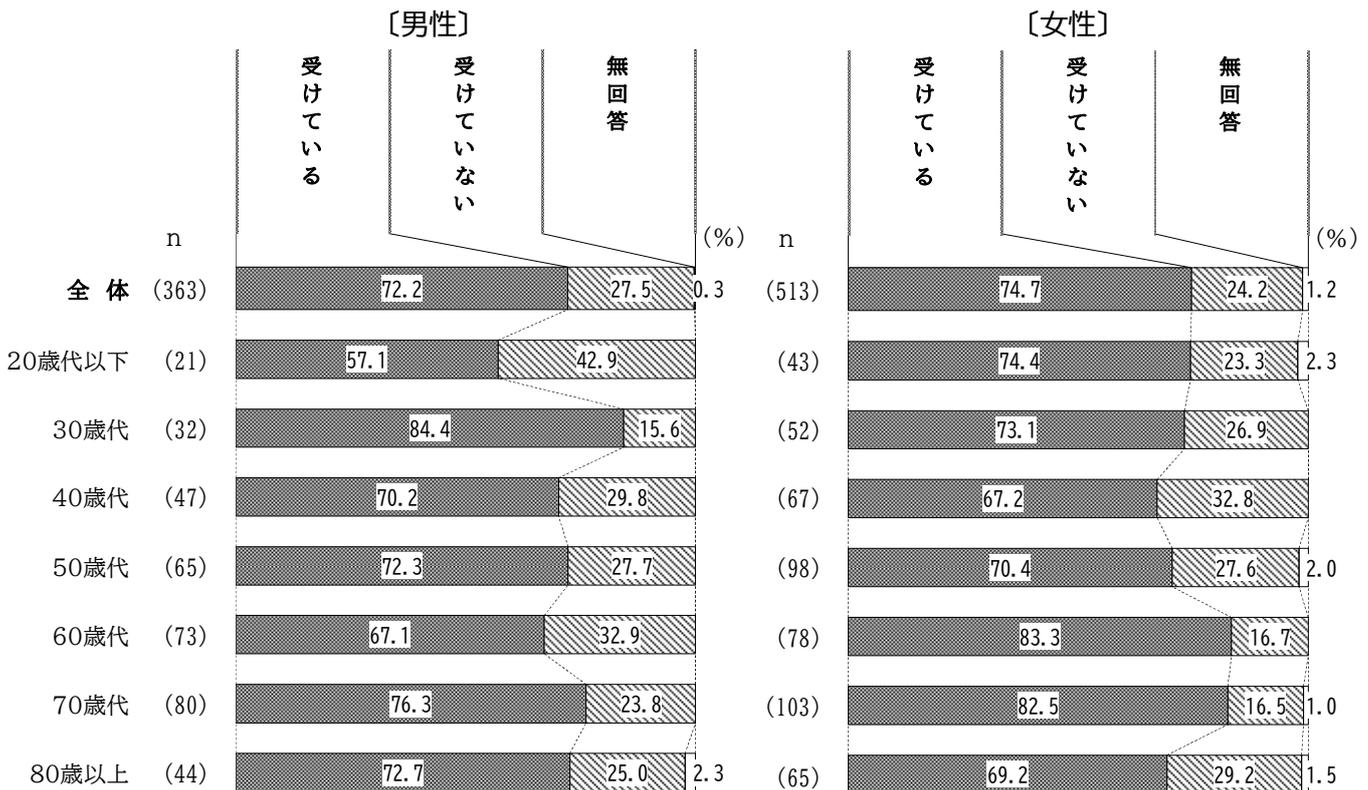


【性別、性／年代別】

性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

性／年代別で見ると、男性では、「受けている」は30歳代で84.4%と最も高く、次いで70歳代で76.3%となっている。

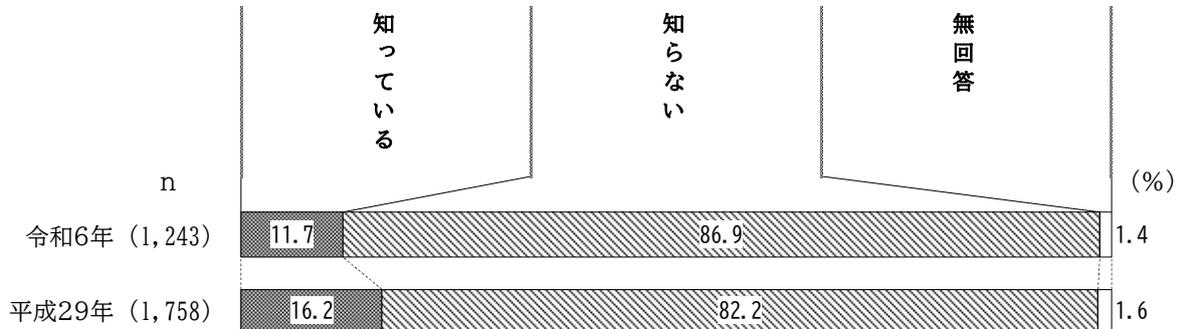
女性では、「受けている」は60歳代で83.3%と最も高く、70歳代で82.5%と並んでいる。



(3) 緊急医療救護所の認知度

緊急医療救護所の認知度は、「知っている」が11.7%、「知らない」が86.9%となっている。

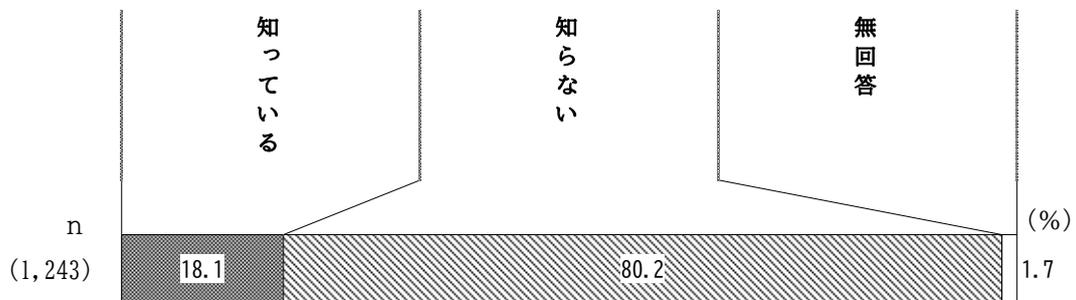
時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



「緊急医療救護所」は、地震など大規模災害時に、病院の門前などで負傷者の治療の優先度をつけたり、軽症者の治療を行うために設置されます。

(4) 在宅医療の制度や仕組みの認知状況

在宅医療制度やしくみの認知度は、「知っている」が18.1%、「知らない」が80.2%となっている。

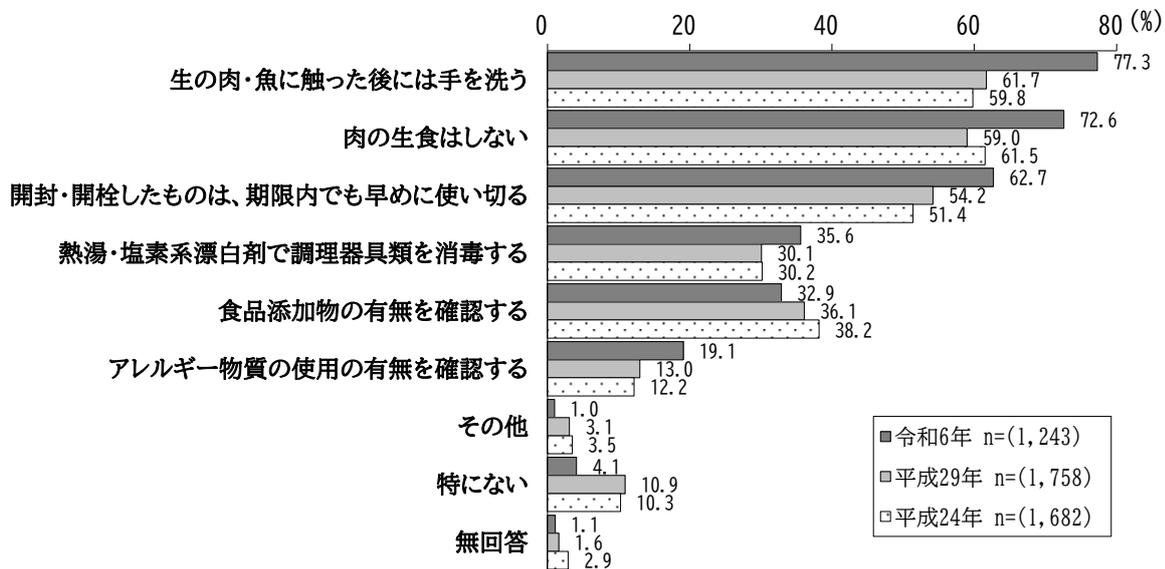


12. 生活衛生対策について

(1) 食品衛生の注意点

食品衛生で注意していることは、「生の肉・魚に触った後には手を洗う」が77.3%で最も高く、次いで「肉の生食はしない」が72.6%、「開封・開栓したものは、期限内でも早めに使い切る」が62.7%となっている。

時系列で比較すると、「生の肉・魚に触った後には手を洗う」（令和6年：77.3% 平成29年：61.7% 平成24年：59.8%）が前回調査より15.6ポイント、前々回調査より17.5ポイント、「肉の生食はしない」（令和6年：72.6% 平成29年：59.0% 平成24年：61.5%）が前回調査より13.6ポイント、前々回調査より11.1ポイント、「開封・開栓したものは、期限内でも早めに使い切る」（令和6年：62.7% 平成29年：54.2% 平成24年：51.4%）が前回調査より8.5ポイント、前々回調査より11.3ポイント増加している。

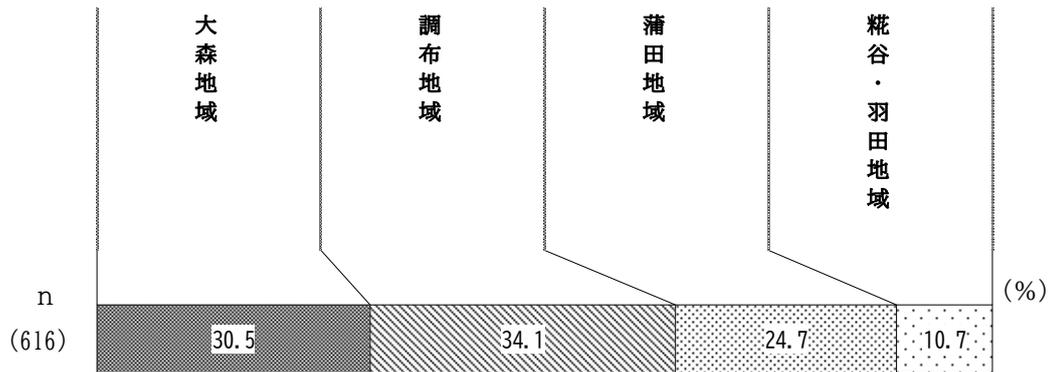


3 健康に関するアンケート調査結果（小学6年生）

1. あなた自身について

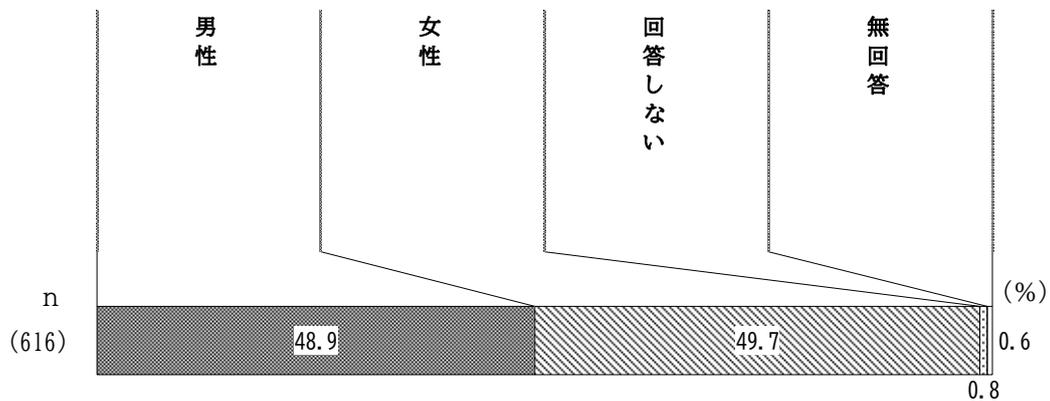
(1) 地域

回答者の地域は、「大森地域」が30.5%、「調布地域」が34.1%、「蒲田地域」が24.7%、「糀谷・羽田地域」が10.7%となっている。



(2) 性別

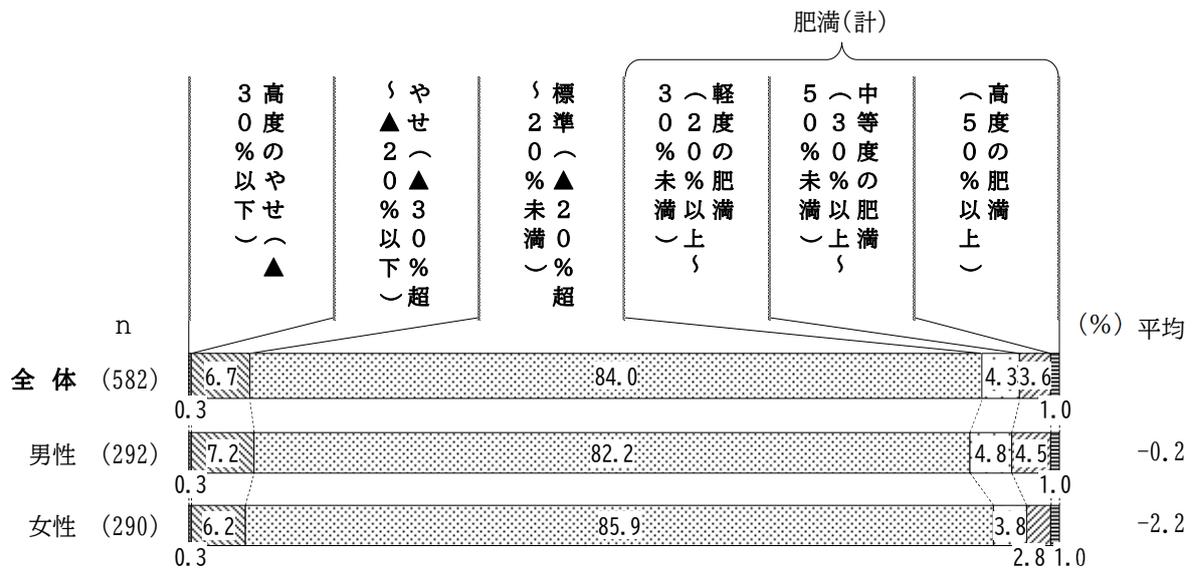
回答者の性別は、「男性」が48.9%、「女性」が49.7%となっている。



(3) 身長・体重・肥満度

身長と体重の結果をもとに肥満度を算出した結果、構成比は、「標準（▲20%超～20%未満）」が84.0%で最も高くなっている。「軽度の肥満（20%以上～30%未満）」が4.3%、「中程度の肥満（30%以上～50%未満）」が3.6%、「高度の肥満（50%以上）」（1.0%）までを合わせると、《肥満（計）》は8.9%である。

性別については、男性の平均は肥満度▲0.2%、女性の平均は肥満度▲2.2%である。肥満度を測る1つの指標として構成比について特に大きな違いはみられない。

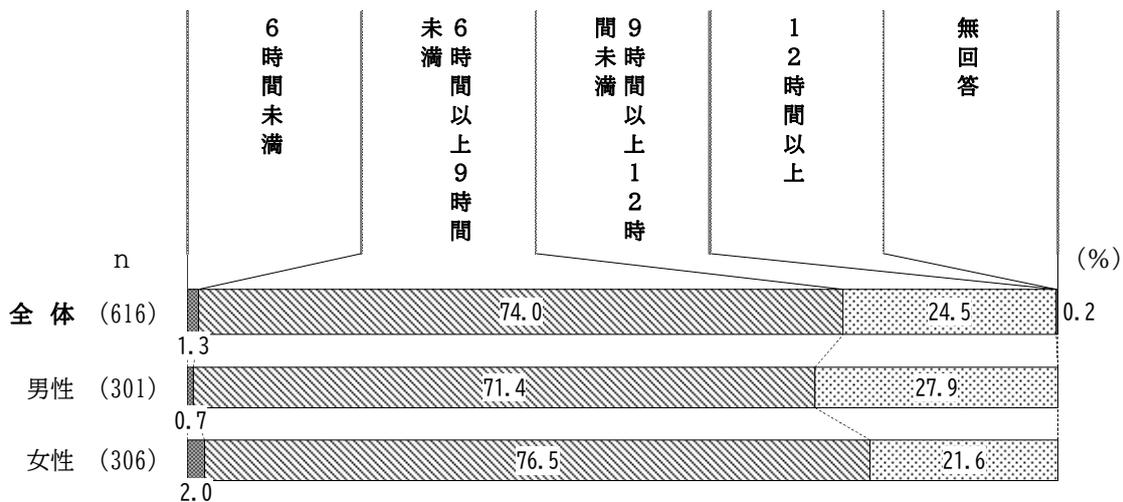


2. 日頃の生活について

(1) 1日の平均睡眠時間

1日の平均睡眠時間は、「6時間以上9時間未満」が74.0%で最も高く、次いで「9時間以上12時間未満」が24.5%、「6時間未満」が1.3%となっている。「12時間以上」は回答者がいなかった。

性別でみると、「6時間以上9時間未満」（男性：71.4% 女性：76.5%）は、女性の方が男性よりも5.1ポイント高くなっている。「9時間以上12時間未満」（男性：27.9% 女性：21.6%）は、男性の方が女性よりも6.3ポイント高くなっている。

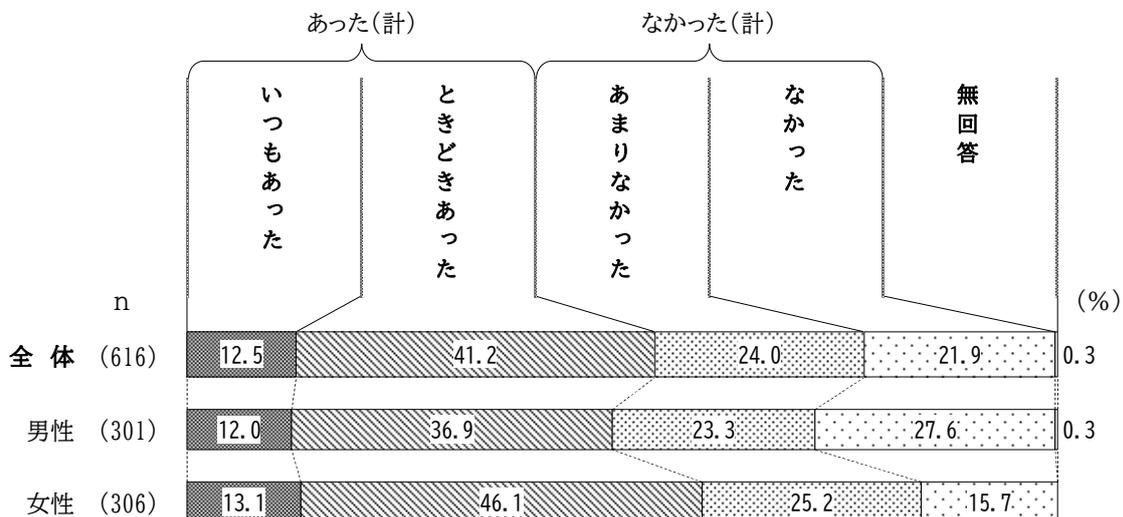


(2) ストレスの状況

最近1か月間のストレスの状況は、「いつもあった」（12.5%）と「ときどきあった」（41.2%）を合わせて、「あった（計）」は53.7%となっている。

一方「あまりなかった」（24.0%）と「なかった」（21.9%）を合わせて、「なかった（計）」は45.9%となっている。

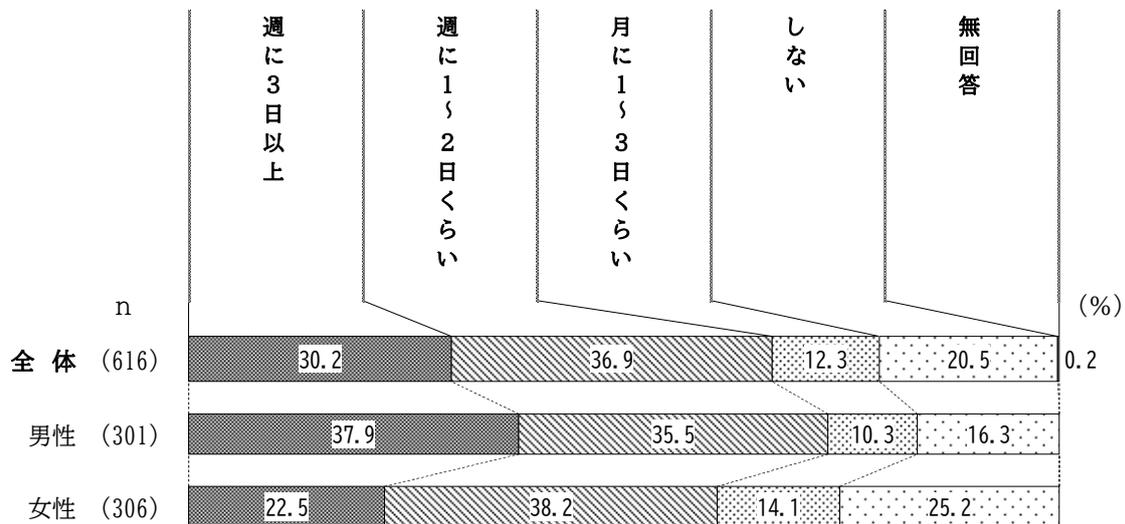
性別でみると、「あった（計）」（男性：48.9% 女性：59.2%）は、女性の方が男性よりも10.3ポイント高くなっている。



(3) 運動の状況

学校の体育の授業をのぞいた運動の状況は、「週に1～2日くらい」が36.9%で最も高く、次いで「週に3日以上」が30.2%、「月に1～3日くらい」が12.3%となっている。一方、「しない」が20.5%となっている。

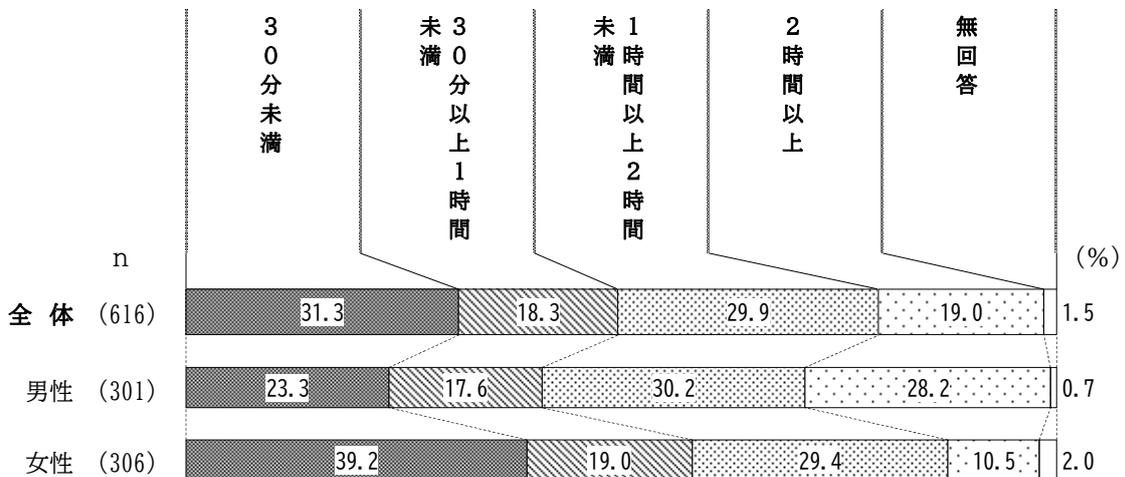
性別で見ると、「週に3日以上」(男性：37.9% 女性：22.5%)は、男性の方が女性よりも15.4ポイント高くなっている。一方、「しない」(男性：16.3% 女性：25.2%)は、女性の方が男性よりも8.9ポイント高くなっている。



(4) 1日の運動時間

学校の体育の授業をのぞいた1日の運動時間は、「30分未満」が31.3%で最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」が29.9%、「2時間以上」が19.0%、「30分以上1時間未満」が18.3%となっている。

性別で見ると、「2時間以上」(男性：28.2% 女性：10.5%)は、男性の方が女性よりも17.7ポイント高くなっている。「30分未満」(男性：23.3% 女性：39.2%)は、女性の方が男性よりも15.9ポイント高くなっている。

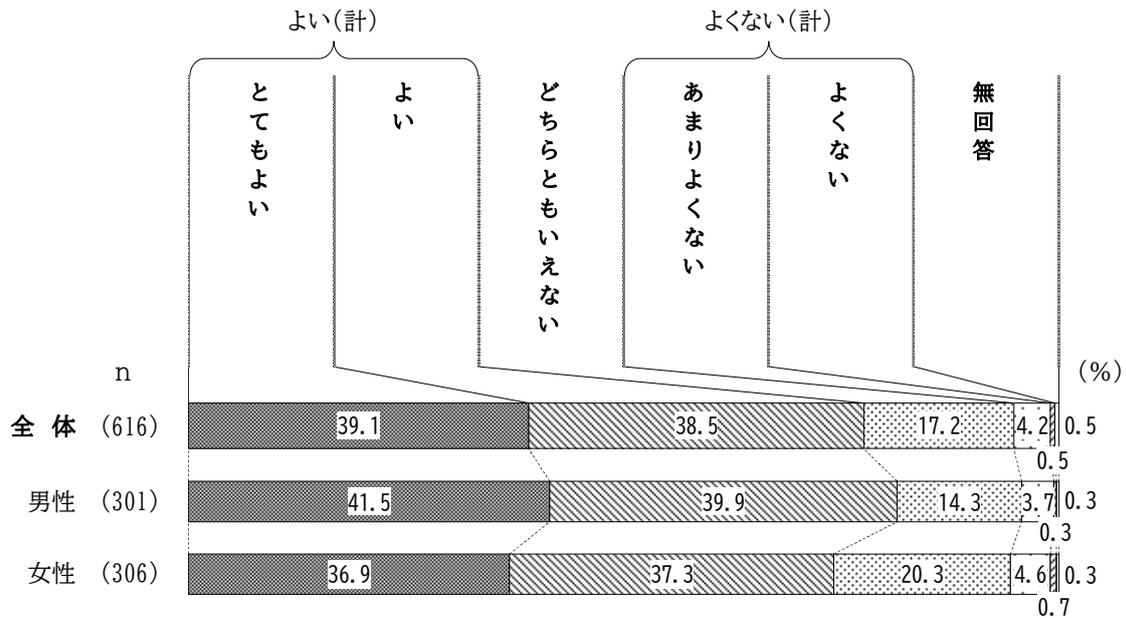


(5) 健康状態

現在の健康状態は「とてもよい」が39.1%で最も高く、次いで「よい」が38.5%、「どちらともいえない」が17.2%となっている。「とてもよい」と「よい」を合わせて、「よい(計)」は77.6%となっている。

一方「あまりよくない」(4.2%)と「よくない」(0.5%)を合わせて、「よくない(計)」は4.7%となっている。

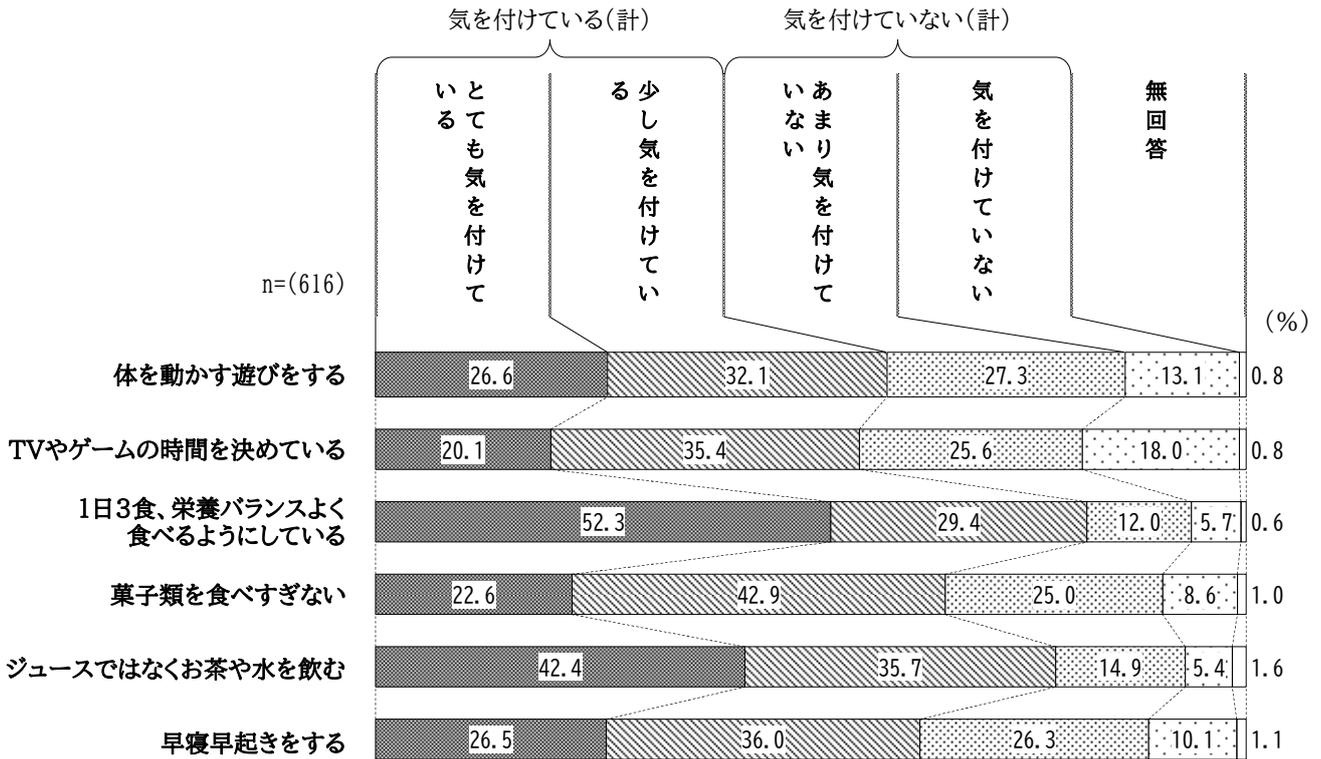
性別で見ると、「よい(計)」(男性：81.4% 女性：74.2%)は、男性の方が女性よりも7.2ポイント高くなっている。



(6) 健康で気をつけていること

健康で気をつけていることで「とても気をつけている」と「少し気をつけている」を合わせて、「気をつけている(計)」は、すべての項目で過半数を占めており、特に“1日3食、栄養バランスよく食べるようにしている”(81.7%)、“ジュースではなくお茶や水を飲む”(78.1%)で8割前後と高くなっている。

一方、「あまり気をつけていない」と「気をつけていない」を合わせて、「気をつけていない(計)」は、“TVやゲームの時間を決めている”(43.6%)、“体を動かす遊びをする”(40.4%)で4割台と他の項目に比べて高くなっている。

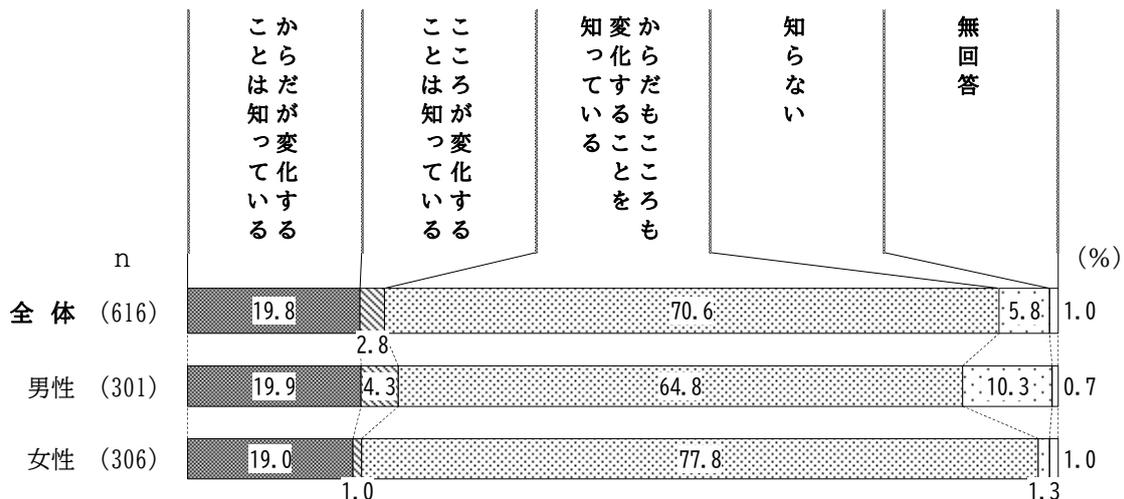


3. こころの健康について

(1) 思春期についての認知状況

小学校高学年のころから、からだやこころが変化する思春期についての認知状況は、「からだもこころも変化するを知っている」が70.6%で最も高く、次いで「からだに変化することは知っている」が19.8%、「こころに変化することは知っている」が2.8%となっている。

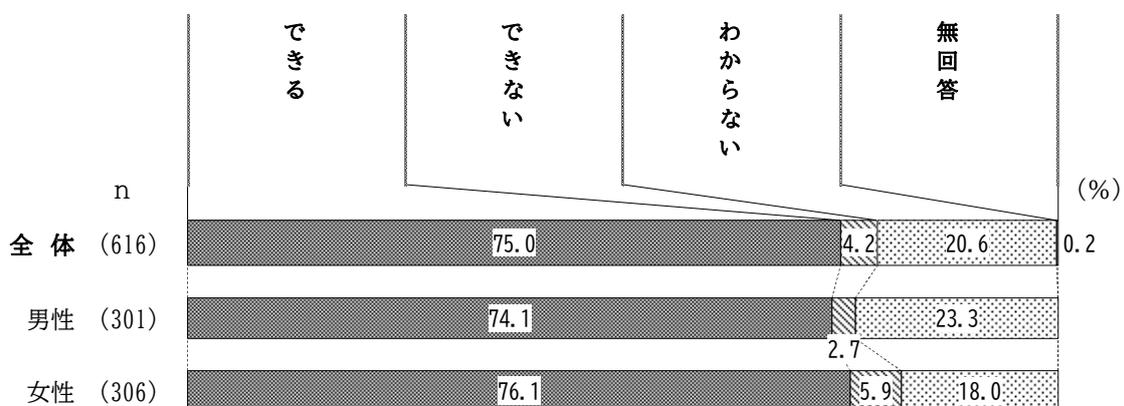
性別で見ると、「からだもこころも変化するを知っている」（男性：64.8% 女性：77.8%）は、女性の方が男性よりも13.0ポイント高くなっている。一方、「知らない」（男性：10.3% 女性：1.3%）は、男性の方が女性よりも9.0ポイント高くなっている。



(2) 相談できる人の有無

困ったり悩んだときに相談できる人の有無は、「できる」が75.0%、「できない」が4.2%、「わからない」が20.6%となっている。

性別で見ると、「わからない」（男性：23.3% 女性：18.0%）は、男性の方が女性よりも5.3ポイント高くなっている。

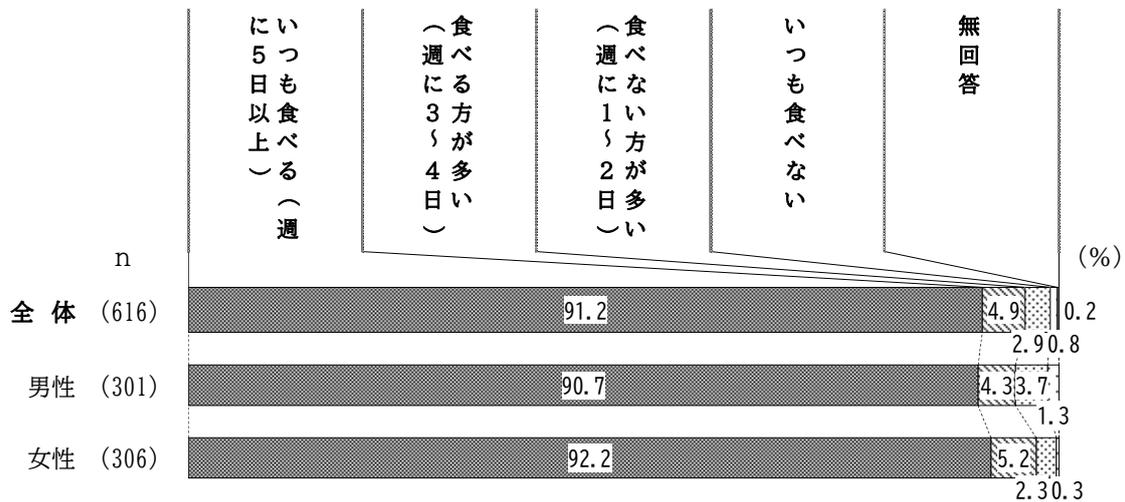


4. 食生活について

(1) 朝食の摂取状況

朝食の摂取状況は、「いつも食べる（週に5日以上）」が91.2%で最も高く、次いで「食べる方が多い（週に3～4日）」が4.9%、「食べない方が多い（週に1～2日）」が2.9%、「いつも食べない」が0.8%となっている。

性別でみると、特に大きな違いはみられない。

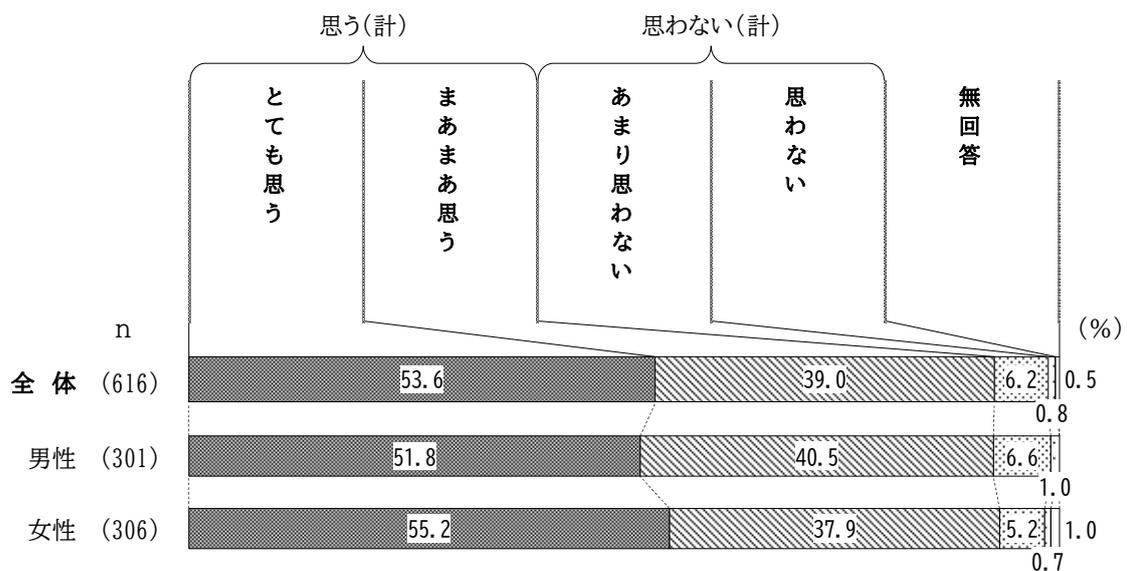


(2) 食事を残したときに、「もったいない」と思う頻度

食事を残したときに、「もったいない」と思う頻度は、「とても思う」（53.6%）と「まあまあ思う」（39.0%）を合わせて、《思う（計）》は92.6%となっている。

一方「あまり思わない」（6.2%）と「思わない」（0.8%）を合わせて、《思わない（計）》は7.0%となっている。

性別でみると、特に大きな違いはみられない。

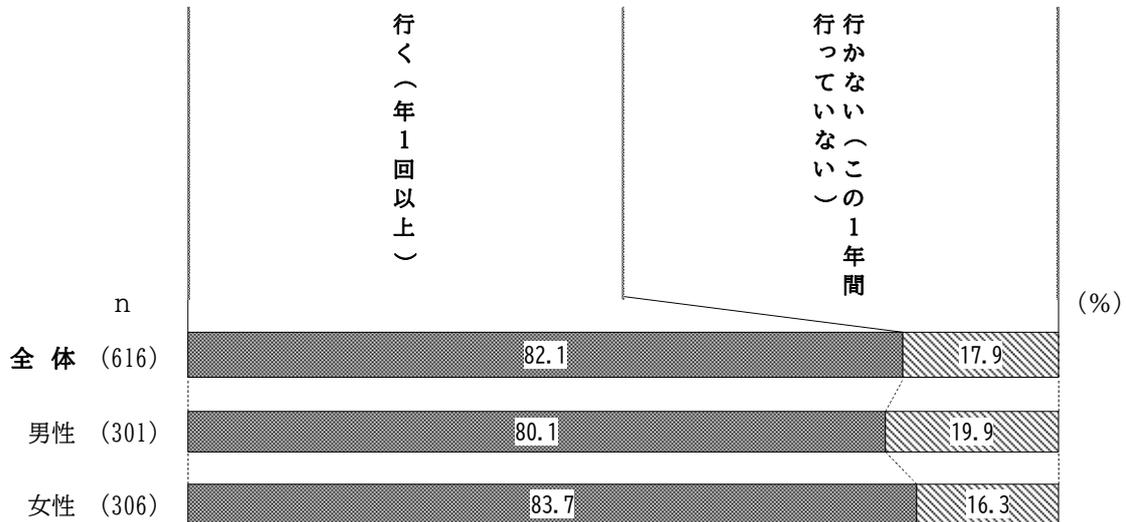


5. 歯の健康について

(1) むし歯以外での歯医者への通院

むし歯以外での歯医者への通院は、「行く（年1回以上）」が82.1%、「行かない（この1年間に行っていない）」が17.9%となっている。

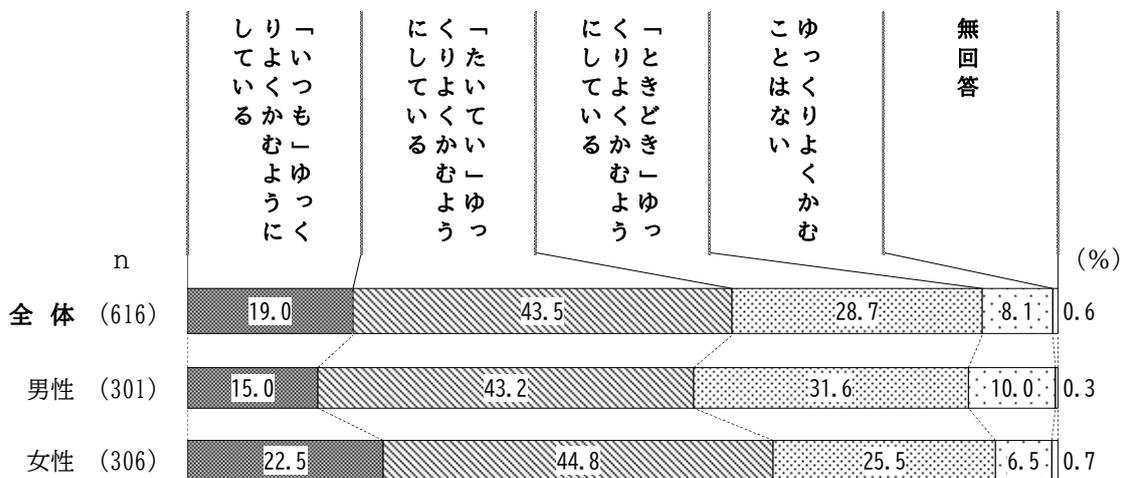
性別でみると、特に大きな違いはみられない。



(2) ゆっくりよくかんで食べる状況

ゆっくりよくかんで食べる状況は、「『たいてい』ゆっくりよくかむようにしている」が43.5%で最も高く、次いで「『ときどき』ゆっくりよくかむようにしている」が28.7%、「『いつも』ゆっくりよくかむようにしている」が19.0%、「ゆっくりよくかむことはない」が8.1%となっている。

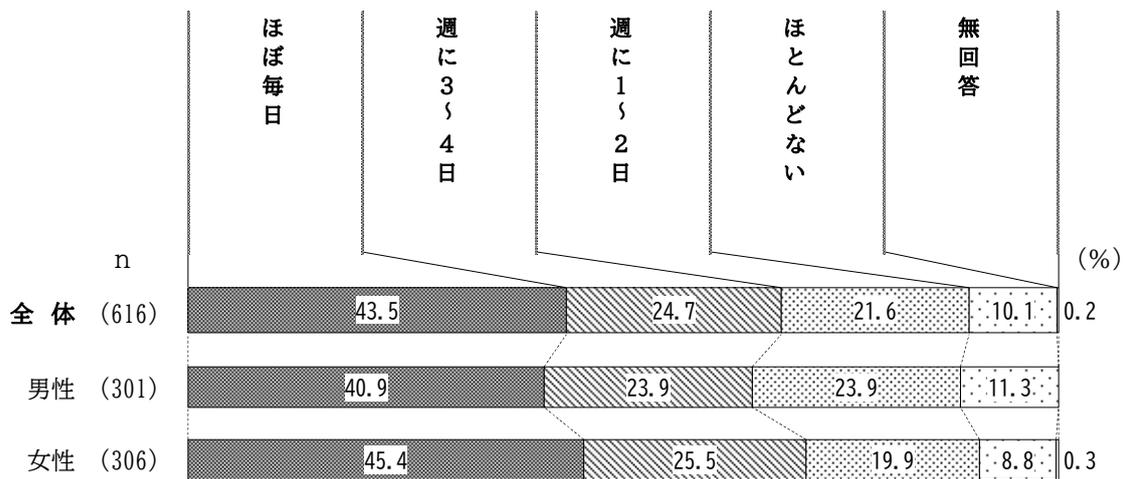
性別では、「『いつも』ゆっくりよくかむようにしている」（男性：15.0% 女性：22.5%）は、女性の方が男性よりも7.5ポイント高くなっている。「『ときどき』ゆっくりよくかむようにしている」（男性：31.6% 女性：25.5%）は、男性の方が女性よりも6.1ポイント高くなっている。



(3) ていねいな歯みがきの習慣

1本ずつていねいに時間をかけたていねいな歯みがきの習慣は、「ほぼ毎日」が43.5%で最も高く、次いで「週に3～4日」が24.7%、「週に1～2日」が21.6%、「ほとんどない」が10.1%となっている。

性別で見ると、特に大きな違いはみられない。



健康に関するアンケート調査報告書
－ 概要版 －

令和7年2月発行

【発行】大田区 健康政策部 健康医療政策課
〒144-8621 東京都大田区蒲田5-13-14
TEL:03-5744-1682
FAX:03-5744-1523